



神奈川県

# 「シチズンシップ教育」 推進のためのガイドブック



平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

## はじめに

平成 20 年 1 月に出された中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」の答申で、「生きる力」をはぐくむという理念がますます重要になっていると示されましたが、その背景として、現代は「知識基盤社会」の時代であるということが強調されました。「知識基盤社会」の特質としては、知識に国境がなく、グローバル化が一層進む、知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる、知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる、性別や年齢を問わず参画することが促進される、などが挙げられます。このような社会では、自己責任を果たすとともに、国や地域社会の課題の解決に主体的に参画する態度を身に付けることが大切であると言われていています。

こうした中で注目されているのが「シチズンシップ教育」です。経済産業省では、平成 18 年 3 月に「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会報告書」をまとめ、学校等での普及に向けた提言を行っています。

本県では、特に高等学校において、「責任ある社会的な行動をとり、地域社会に積極的に参加するような、これからの社会を担う自立した社会人を育成」することを目指して、平成 19 年度からキャリア教育の取組の発展として「シチズンシップ教育」を推進しています。

本冊子は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、教科指導等の中でシチズンシップ教育を行うためのガイドブックです。特別な教育課程や組織の中で行うのではなく、通常の教科等の中でシチズンシップ教育を行うための視点とそれに基づいた事例を示したものです。

本冊子が学校教育現場における教育実践の参考として少しでもご活用いただければ幸いです。

平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 安 藤 正 幸

# 目 次

はじめに

目次

本ガイドブックの目的と構成

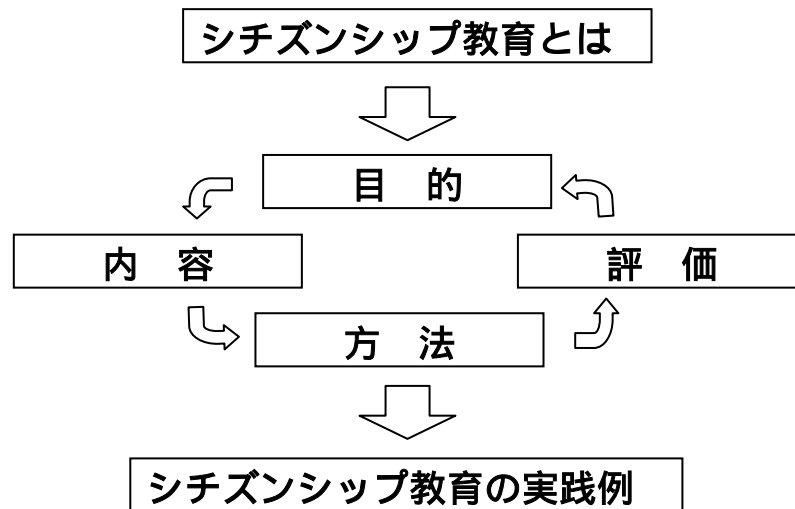
第1章 今、求められるシチズンシップ教育	1
1 シチズンシップ教育とは	1
2 神奈川のシチズンシップ教育	3
第2章 シチズンシップ教育の実践に向けて	5
1 シチズンシップ教育の目的	5
2 シチズンシップ教育の内容	7
3 シチズンシップ教育の方法	9
4 シチズンシップ教育の評価	11
第3章 シチズンシップ教育の実践例	13
1 実践例の見方	13

2	小学校の実践例	-----	17
	社会 第5学年「わたしたちの生活と工業生産 自動車をつくる工業」	-----	17
	特別活動 第5学年「児童会選挙をしよう」	-----	23
3	中学校の実践例	-----	29
	社会 第3学年「地域を向上させる条例を制定しよう」	-----	29
	社会 第3学年「選挙制度と政党」	-----	37
4	高等学校の実践例	-----	47
	外国語（英語） 第2学年 「INVITE PEOPLE TO YOUR TOWN！」	-----	47
5	特別支援学校の実践例	-----	53
	社会 知的障害教育部門 高等部「手話ニュースを見る」	-----	53
6	実践例全体の考察	-----	58
	引用・参考文献	-----	59
	作成関係者		

## 本ガイドブックの目的と構成

本冊子は、シチズンシップ教育を推進するためのガイドブックです。特別な教育課程や組織等を必要とするのではなく、通常の教科等の中で実践できるシチズンシップ教育を目指しています。

本ガイドブックは、シチズンシップ教育を実践するに当たってのポイントを示し、それに基づいた実践事例を紹介しています。



## シティズンシップ教育とシチズンシップ教育

経済産業省等では「シティズンシップ教育」と表記していますが、ここでは、神奈川県が使っている「シチズンシップ教育」という表記を使用します。



# 第1章 今、求められるシチズンシップ教育

## 1 シチズンシップ教育とは

### 成熟した市民社会に向けて

今世紀に入り、社会のグローバル化、情報化が一層さげられるようになってきました。今や地球規模で社会を考える時代となりました。

平成14年12月の国連総会において、平成17年から10年間で「国連持続可能な開発のための教育の10年」とすることが採択されました。これを受けて政府は、わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画を定めました。「知識の獲得のみならず、持続可能な社会の担い手となる人づくり」として、公共に主体的にかかわり持続可能な社会づくりに参画する個人をはぐくむことを目指しています。\*

急速に変化する社会に対応するためには、自立・自律した個人が、行政や企業などと協力し合って、主体的に社会に参加していくことが期待されています。そして、このような人々が活躍し、多様な価値観や文化を持つ人々によって構成される、いわゆる成熟した市民社会が求められているのです。

近年、例えば、災害時や大規模なスポーツイベントなどでのボランティア活動、地域における「行政と住民との協働」(埼玉県志木市)など、成熟した市民社会の形成につながる活動の芽生えが見られるようになってきました。一方で、若年層の投票率の低下に見られる社会への無関心、社会の一員としての自覚のなさなどの問題や、家庭の教育力の低下、自殺の増加など、社会の変化に対応できず、社会との適切な関係を結べなくなってしまう人々の存在も看過できないものとなっています。したがって、現状は必ずしもすべての人々が自発的に社会とのかかわりを持つことのできる環境にはないと言えます。

このように、わが国の社会が成熟した市民社会として成り立つためには、市民一人ひとりが社会参加をしていくために必要な能力を身に付けることが必要であり、そのための教育として注目されているのが「シチズンシップ教育」です。



\* 社会の持続可能な発展については、「共存・協力」が必要であるとの視点で、平成20年1月の中央教育審議会答申の(「知識基盤社会」の時代と「生きる力」)の中でも述べられています。

## シチズンシップ教育の概要

平成 18 年 3 月、経済産業省から「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会 報告書」(以下「報告書」という。)が出されました。「報告書」では、シチズンシップを次のように定義しています。

多様な価値観や文化で構成される社会において、個人が自己を守り、自己実現を図るとともに、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、社会の意思決定や運営の過程において、個人としての権利と義務を行使し、多様な関係者と積極的に(アクティブに)関わろうとする資質

シチズンシップ教育について、「報告書」の内容を整理すると以下のようになります。

### 目的

市民一人ひとりが、社会の一員として、地域や社会での課題を見付け、その解決やサービス提供に関する企画・検討、決定、実施、評価の過程にかかわることによって、急速に変革する社会の中でも、自分を守ると同時に他者との適切な関係を築き、職に就いて豊かな生活を送り、個性を発揮し、自己実現を行い、さらによりよい社会づくりにかかわるために必要な能力を身に付けること

### 能力

シチズンシップを発揮するために必要な三つの能力

意識	自分自身、他者とのかかわり、社会への参画に関する意識
知識	公的・共同的、政治的、経済的分野での活動に必要な知識
スキル	社会や他者との関係性の中でいかす際に必要となるスキル

### 対象

児童・生徒から高齢者まですべての人々

フォーマルエデュケーション	学校(主に児童・生徒)
インフォーマルエデュケーション	地域・家庭・企業(主に成人)

### 分野

シチズンシップが発揮される三つの分野

公的・共同的な分野(社会・文化)	地域活動への参画等
政治分野	民主主義についての理解と行動等
経済分野	生産や消費・生活に関する行動等

### 展開

シチズンシップ教育を展開するに当たっての四つの留意点

適切な学習機会の提供とシチズンシップを体験するための参画の場の確保  
既存の教科の中での取組の検討  
教師の理解とそれに向けた研修プログラムの充実  
シチズンシップ教育の普及と支援

## 2 神奈川のシチズンシップ教育

### 「かながわ教育ビジョン」を基盤として

神奈川県教育委員会は、平成 19 年 8 月、明日のかながわを担う人づくりを進めるため、教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を策定しました。自立した一人の人間を目指す自分づくりと、社会の構成員としてよりよい社会づくりにかかわる総合的な力を人間力ととらえ、「心ふれあう しなやかな 人づくり」を提唱しました。

「かながわ教育ビジョン」を受けて取り組む具体的な施策・事業は、県の総合計画である「神奈川力構想・実施計画」に位置付けられました。これを踏まえて県教育委員会が県立高等学校向けに示したものが「平成 20 年度 学校運営の重点課題」(以下「重点課題」という。)です。

「重点課題」の中に「キャリア教育の推進」があります。高等学校におけるキャリア教育は、「産業構造や雇用形態等の急激な変化の中、生徒が生きる力を身に付け、さまざまな課題に柔軟かつ意欲的に対応し、社会人・職業人として自立していくこと」が求められる現状を受け、「社会への移行の準備」として重視されています。そうした取組の一環として、社会参加のための能力と態度を育てる「シチズンシップ教育」が位置付けられています(平成 21 年度も変更はありません)。

### シチズンシップ教育の推進

神奈川県教育委員会では、シチズンシップ教育の推進について次のように述べています。

よりよい社会の実現に向けて、規範意識をもち、社会や経済のしくみを理解するために必要な知識や技能を身に付け、社会人として望ましい社会を維持、運営していく力を養うため、積極的に社会参加するための能力と態度を育成する

(「重点課題」より)

県教育委員会では、平成 19 年度から、社会や政治への意識を高める教育や消費者教育、租税教育などについて、8 校の県立高等学校をシチズンシップ教育実践研究校として指定し、実践的な取組を進めています。

#### 〔重点テーマ〕

社会参加や政治意識を高める取組(市民活動に対する理解や実践、模擬投票、模擬裁判などを通じた社会のしくみに対する実践的な理解の促進等)

経済・金融教育(消費者教育や企業の社会的責任、お金とのつきあい方などの金融教育等)

モラル・マナー教育(社会的規範意識の育成、人間としての在り方生き方、人間尊重や他者との共生などの道徳教育等)





## 神奈川県立総合教育センターにおける研究

神奈川県立総合教育センターでは、シチズンシップ教育を高等学校のみならず、小学校や中学校、特別支援学校で実践するという視点で、平成19年度から調査研究を行ってきました。

「報告書」をよりどころに、「かながわ教育ビジョン」や「重点課題」、先進校の実践等を参考にしながら、シチズンシップ教育を通常の教科等の授業の中に取り入れることができるように研究を進めました。先進校の取組などから、学習指導に当たっては、切実感を持たせること、市民としての意識を持たせることが重要であることが分かりました。



### 先進校の取組例

#### お茶の水女子大学附属小学校「市民科」

「提案や意思決定の学びを通して市民的資質を育む教科」として発足し、平成13年度より小学校3年から6年まで週3時間で実施されています。内容については、社会科を母体にしつつも、学習活動の中で子どもが実際に判断したり決定したりする場面が多くなるように「学習問題の設定の仕方」に工夫を施しています。「相手を説得したい」とか「自分の考えを分かってほしい」といった切実感を大事にし、例えば、「明治維新のときには、どのような人物がどんな思いや願いで新しい国づくりを進めようとしたのか」といったテーマでなく「明治の国づくりでは、西郷と大久保のどちらの考え方を支持しますか」として、児童が判断、意思決定をしながら、学級集団として合意を図るような取組が見られます。

#### 品川区立小中一貫校の「市民科」

平成12年度から取組を始めた教育改革「プラン21」の一環として位置付けられ、従来の道徳と総合的な学習の時間、特別活動を融合させた品川区独自の教科で、平成18年度より実施されています。小中一貫教育のため、1～9年生で実施し、市民科で学年別に設定しているねらいは、次のように整理されています。

- 1～2年：基本的な生活習慣と規範意識
- 3～4年：よりよい生活への態度育成
- 5～7年：社会的行動力の基礎
- 8～9年：市民意識の醸成と将来の生き方



## 第2章 シチズンシップ教育の実践に向けて

### 1 シチズンシップ教育の目的

#### 教科等で行うシチズンシップ教育

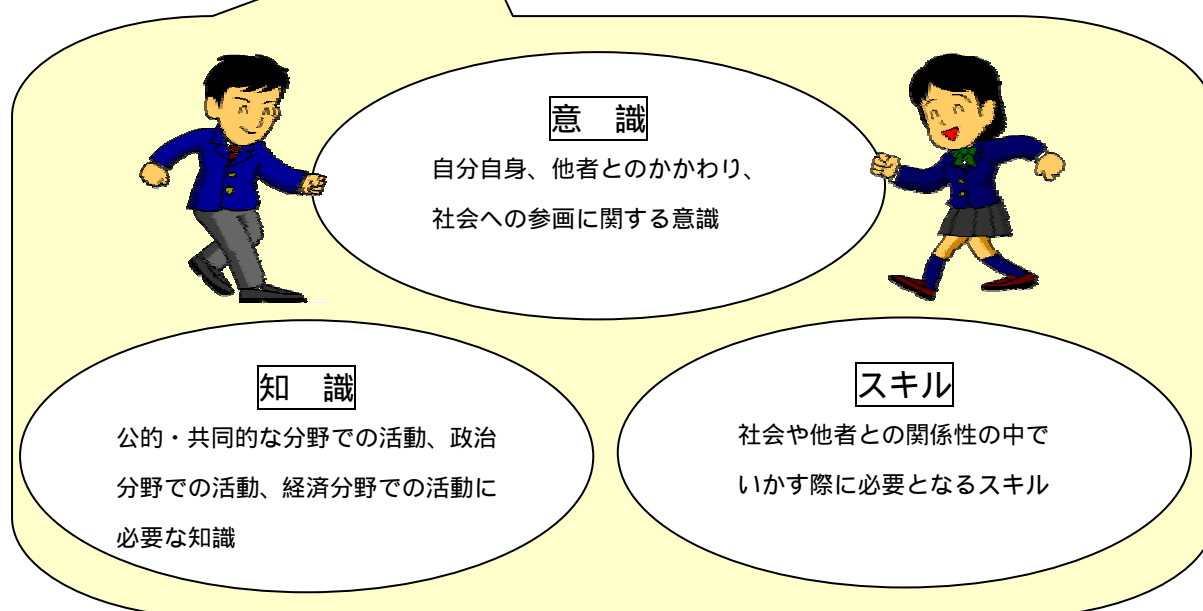
シチズンシップ教育は、2ページに示したように、シチズンシップを発揮するために必要な能力を身に付けることを目的とした教育です。

各教科等の中で取り組む場合、単元目標や本時目標は、当然各教科等の目標となります。その目標に迫る過程で、シチズンシップを発揮するために必要な能力を身に付けることができるようにしていきます。

必要な能力とは、以下の図のように意識、知識、スキルに分類されますが、「報告書」によれば、これらをバランスよく獲得しながらシチズンシップを最大限に発揮することによって、自己実現し、また、よりよい社会の実現へ寄与していくことができるとしています。

#### 【シチズンシップ教育の目的】

シチズンシップを発揮するために必要な能力や態度を身に付けることを目的とした教育



## 【シチズンシップを発揮するために必要な能力や態度の全体像】



意識	自分自身に関する意識
	向上心、探究心、学習意欲、労働意欲 等
	他者とのかかわりに関する意識
	人権・尊厳の尊重、多様性・異文化の尊重、他者に対する敬意と寛容、相互扶助意識、ボランティア精神 等
	社会への参画に関する意識
知識	法令・規範の遵守、政治への参画、社会に関与し貢献しようとする意識、環境との共生や持続的な発展を考える意識 等
	公的・共同的な分野での活動に必要な知識
	教養・文化・歴史、思想・哲学、社会的規範、ユニバーサルデザイン、環境問題、まちづくり、NPO・NGO 等
	政治分野での活動に必要な知識
	わが国の民主主義の仕組み（国民主権、代議制、三権分立、選挙制度、政党など）、国民の権利・義務、基本的な法制度、政府の仕組み（内閣、府省、財政など）、住民運動、住民参加、情報公開、戦争と平和、国際紛争、海外の政治制度 等
スキル	経済分野での活動に必要な知識
	市場原理、景気、資本主義の仕組み、ボーダーレス経済、消費者の権利、労働者の権利、多様な職業の存在と内容、税制、社会保障制度（年金、保険等）、金融・投資・財務、家計、医療・健康（薬物や食を含む）、各種ハラスメント、犯罪・違法行為、CSR（企業の社会的責任）等
	自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキル
	自分のことを客観的に認識する力、他者のことを理解する力、ものごとを俯瞰（ふいかん）的にとらえ全体を把握する力、ものごとを批判的に見る力 等
	情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル
大量の情報の中から必要なものを収集し、効果的な分析を行う力、ICT・メディアリテラシー、価値判断力、論理的思考力、課題を設定する力、計画・構想力 等	
他者とともに社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキル	
プレゼンテーション力、ヒアリング力、ディベート力、リーダーシップ、フォロワーシップ（多様な考え方や価値観の中で、批判的な目でチェック機能を果たしたり、リーダーの意を汲（く）んで行動したり、適切な役割を果たす力）、異なる意見を最終的には集約する力、交渉力、マネジメント力、紛争を解決する力、リスクマネジメント力 等	

（「報告書」を基に作成）

シチズンシップを発揮するために必要な能力や態度を身に付けさせるためには、取り上げる教材や学習場面といった内容、方法を工夫することが大切です。

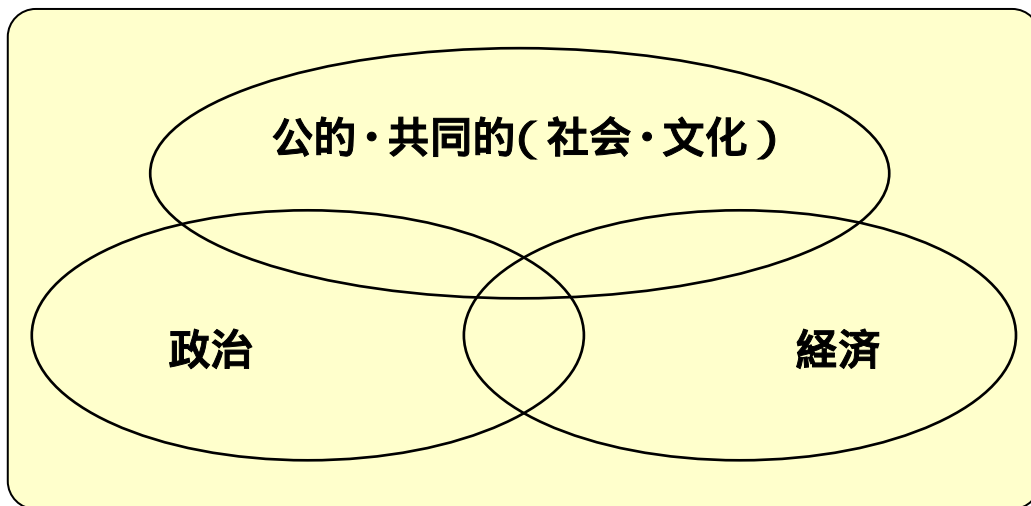
## 2 シチズンシップ教育の内容

### 活動分野

シチズンシップ教育をどのような活動を通して行うかという内容面について、本ガイドブックでは、次の三つを活動分野として設定しました。これらを扱う教科等としては、社会、技術・家庭（家庭）、特別活動、総合的な学習の時間などが考えられますが、他の教科等においても単元の内容を工夫することで十分可能です。

こうした活動を通して必要な知識を体験的に身に付けるとともに、意識やスキルを高めていくのです。

#### 【活動分野】



#### 公的・共同的な分野での活動（社会・文化活動）

市民のニーズや社会的な課題へ対応するために、市民一人ひとりが自分たちの意思に基づいて、関係者と協力して取り組む活動です。

#### 政治分野での活動

自分たちの生活を左右したり社会の仕組みに影響を及ぼしたりする政策に、自分たちの意思を反映しようとする活動です。

#### 経済分野での活動

自分たちの生命や資産を守りながら、社会全体にとってプラスと考えられる消費・生活行動を実現する活動です。



## 【学習活動例】

「テーマ（単元名）」

校種・学年（教科等）

学習内容 活動分野

「やくそくについてかんがえよう」

小学校低学年（特別活動・道徳）

家庭や学校での約束について話し合い、  
理解を深め、日常化できるようにする

公的・共同的な分野

「北海道で新しい会社をつくろう」

小学校中・高学年（社会）

北海道で会社を設立する設定で、地形や気候を  
生かした産業を考えて、具体的に提案する

経済分野

「子ども議会」

小学校高学年（総合的な学習の時間・社会）

住みやすい地域にするために、調べたことをまとめ、  
市や町が主催する「子ども議会」の中で提案する

政治分野



「日本と関係の深い国々」

中学校（社会）

身近な生活体験を通して世界とのつながりに気付き、異なる  
文化や習慣について理解し、適切に対応できるようにする

公的・共同的な分野



「まちづくり学習」

中学校・高等学校（総合的な学習の時間）

フィールドワークを行い、自分たちの考えるまちづくりの構  
想を描き、自治会や役所の人と話し合い、提案をする

公的・共同的な分野

政治分野



「模擬裁判」

高等学校（総合的な学習の時間・公民）

模擬裁判を行い、権利や人権、法制度などについて理  
解し、適切に判断できるようにする

政治分野

「高齢者施設で演奏しよう」

特別支援学校（音楽）

地域貢献活動への意識を持ち、高齢者施設での演奏に  
向けて練習し、成果を発表する

公的・共同的な分野

「報告書」に示された先進校  
のプログラム等を基に作成

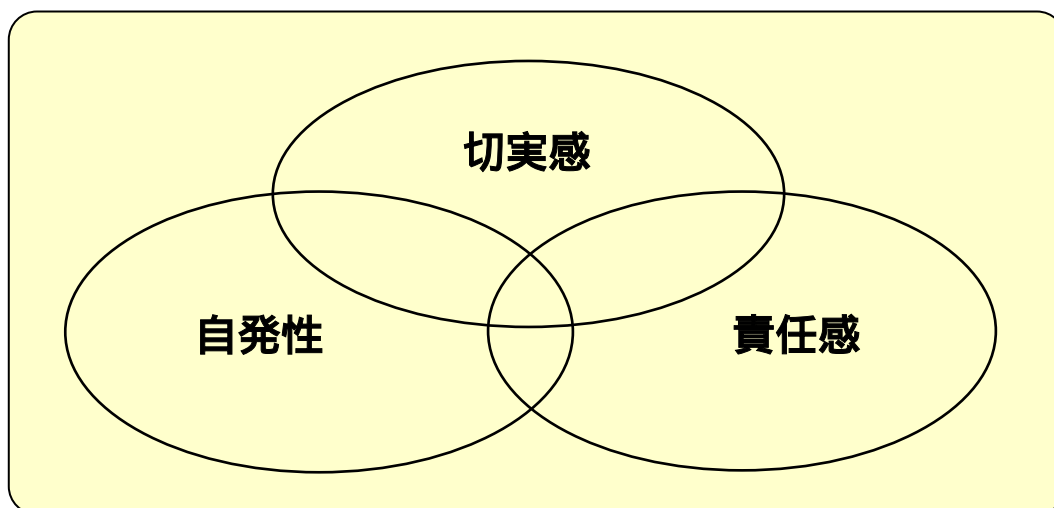
### 3 シチズンシップ教育の方法

#### 単元展開に当たっての留意点

シチズンシップ教育においては、「何を学ぶか」より「どのように学ぶか」ということが大切です。したがって、学習活動は、児童・生徒がテーマを自分たちの問題として受け止め、主体的、共同的に取り組むような展開が望まれます。

本ガイドブックでは、単元の展開に当たって、児童・生徒が「切実感」「自発性」「責任感」を持って活動できるように留意しました。

#### 【単元展開に当たっての留意点】



#### 切実感

「現実に直面する問題を自分たちの力で解決したい」という思いや願いが大切です。よりよい社会の実現に寄与する個人を育てることにつながります。

#### 自発性

「自分から進んで行動する」という態度が大切です。社会における意思決定に積極的に参画する個人を育てることにつながります。

#### 責任感

「自分たちで決めたことやできることを実行しよう」という意思が大切です。自立・自律した個人を育てることにつながります。



## 学習形態の広がり

シチズンシップ教育の学習活動は、知識習得型学習、シミュレーション型学習、体験型学習、プロジェクト型学習など多様な方法が考えられます。

「報告書」に「シチズンシップを発揮するために必要な能力のうち、知識やスキルを身に付けるためには、ある程度の体系的かつ長期的な教育が必要」とあります。教科等の学習活動においては、知識習得型学習やシミュレーション型学習が取り入れやすいと言えますが、児童・生徒が受け身にならないよう意識を高めていく工夫が必要です。総合的な学習の時間の中では、体験型学習やプロジェクト型学習を行うことが可能ですが、参加・実践型につながるような工夫が必要です。

## スキルの要素は問題解決のステップ

「報告書」に示されている「認識・理解のスキル」「情報・知識の収集、理解・判断のスキル」「意思決定、実行のスキル」の三つのスキルをつなぐと、問題解決のプロセスとなります。つまり、スキルを身に付けるためには、単元の展開が問題解決的な学習で進められることが効果的であると言えます。

本ガイドブックでは、当センターが取り組んできた問題解決能力育成のカリキュラムモデルを踏まえて、

「問題の認識または状況の理解」

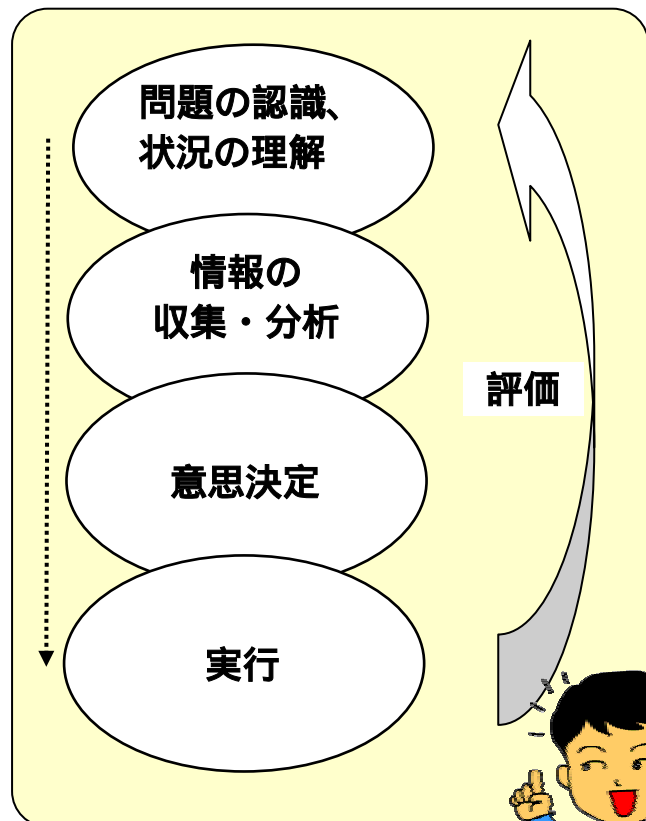
「情報の収集・分析」

「意思決定」

「実行（及び評価）」

の四つのプロセスを原則としました。

問題の解決に当たっては、個人の取組よりも、グループ活動など、児童・生徒が共同で学習することが有効です。友達同士で、意見を出し合って解決策を考えたり、協力して実行したりすることが、シチズンシップを育てることになります。



問題解決のプロセス

## 4 シチズンシップ教育の評価

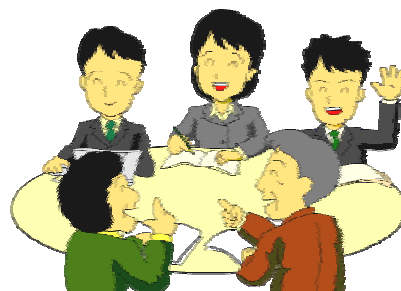
### シチズンシップの能力と単元の評価規準

シチズンシップ教育といっても教科等の中で行われる学習活動の評価は、単元目標に対しての評価ですので、教科等の観点別評価規準に基づいて行います。

シチズンシップを発揮するために必要な能力である「意識」や「スキル」、「知識」は、各教科等の評価の観点（「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」など）の中に、具体的な児童・生徒の姿として表現することができます。つまり、それぞれの評価規準に基づいて評価した結果、十分満足できるものであれば、シチズンシップを発揮するために必要な能力を身に付けたということができます。逆にいえば、単元目標は達成できたがシチズンシップ的には十分ではなかったという学習活動は、シチズンシップ教育を取り入れた単元設定等に工夫が必要であったということです。

### 学習活動の評価

評価には、児童・生徒の学びの評価とともに、学習活動そのものの評価があります。目標に迫るための手立ては適切であったか、取り上げた教材は効果的であったかといった点について、学年研究会などの場で振り返り、気付いたことを指導計画に朱書するなどしておきます。改善点が明確になったら単元指導計画を修正し、次回実施するときの参考資料として役立てます。学習活動は、計画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）のマネジメントサイクルで展開していくことが大切です。



本章では、シチズンシップ教育について「目的」「内容」「方法」「評価」といったカリキュラムの構成要素に基づいて述べましたが、これを整理すると次ページの図のようになります。

第3章では、このような考え方に基づいて実践した教科等での具体的な取組を紹介します。



## シチズンシップ教育のカリキュラムの構成要素

### 目的

シチズンシップを発揮するために必要な能力を身に付けること  
(シチズンシップの「意識」「知識」「スキル」)

### 内容

公的・共同的な分野での活動  
(社会・文化活動)  
政治分野での活動  
経済分野での活動  
(シチズンシップの「知識」)

### 評価

各教科等の評価規準による  
シチズンシップを発揮するために必要な能力を身に付ける  
ことができたか(シチズンシップの「意識」「知識」「スキル」)

### 方法

問題解決のプロセス  
問題の認識または状況の理解  
情報の収集・分析 意思決定  
実行(及び評価)  
(シチズンシップの「スキル」)  
留意点  
切実感、自発性、責任感



## 第3章 シチズンシップ教育の実践例

ここからはシチズンシップ教育を通常の教科等で行った実践例を紹介します。教科等での取組ですので、単元目標は各教科等の学習指導要領の目標・内容に即したものとなります。そこに、前ページのシチズンシップ教育のカリキュラムの構成要素の視点を盛り込むことにより、各教科等でシチズンシップ教育を実現することができるとともに、各教科等の学習指導の充実につなげることができます。

### 1 実践例の見方

#### シチズンシップ教育の視点

実践例の各ページは、単元指導計画と実践内容の二つから構成されています。

単元指導計画は、「単元目標」「単元の評価規準」「単元設定に当たって」「指導計画」「展開例」の各項目を示しましたが、「シチズンシップ教育の視点」の項目も加えました。

前ページのシチズンシップ教育のカリキュラムの構成要素は、単元指導計画上、以下のように示しました。

**目的** ... 「シチズンシップ教育の視点」という項目を置き、意識、知識、スキルを明記しました。6ページに示した「シチズンシップを発揮するために必要な能力や態度」のどれに相当するのかが分かるようにしました。

**内容** ... 公的・共同的分野、政治分野、経済分野のどの内容を扱うのかを「シチズンシップ教育の視点」で示すとともに、それを「単元設定に当たって」の項目等で具体的に分かるようにしました。

**方法** ... 学習活動の中でどのようなスキルが求められるのかを「シチズンシップ教育の視点」や「指導計画」で示すとともに、「単元設定に当たって」の中で切実感や自発性、責任感をどのように持たせるのかを示しました。

**評価** ... 各教科等で実施するものですから、シチズンシップ教育だけの評価ということにはなりません。各教科等の単元目標に対応した評価規準の中に「シチズンシップを発揮するために必要な能力や態度」が反映されるように設定しました。

## 実践例各ページの構成

実践例は、校種ごとに紹介してあります。各ページの構成は以下のようになっています。

社会

第5学年「わたしたちの生活と工業」

教科名及び学年、単元名を示します

**【単元目標】**

自動車工業に従事している人々の工夫や努力、自動車生産を支える貿易や運輸について調べることを通して、工業生産が国民生活や産業を支える重要な役割を果たしているようにする  
安全や環境保全、持続可能な発展を考えながら、これからの自動車工業について考えることができるようにする

単元目標を示します

国立教育政策研究所が示した評価の観点に基づいた単元の評価規準を示します

**【単元の評価規準】**（丸数字は指導計画表に対応）

自動車がどのような努力と工夫によって生産されているか（関心・意欲・態度）  
新しく開発される自動車について興味・関心を持ち、情報を集めるとともに、自らのアイデアをいかした自動車をデザインしようとしている（関心・意欲・態度）  
新しい自動車の開発について調べたことを基に、自分なりのアイデアをいかに活かせるか（関心・意欲・態度）

「公的・共同的」「政治」「経済」の、どの分野で必要な知識を学習するかを示します p. 6 参照

この学習で「自分自身」「他者とのかわり」「社会への参画」の、どれに関する意識を高めさせたいかを示します p. 6 参照

**【シチズンシップ教育の視点】**

意識	社会への参画
知識	公的・共同的な分野、経済分野
スキル	


問題の認識または状況の理解  
・自動車工場での自動車生産や新しい自動車開発の様子  
・新しい自動車を開発する企業の取組を調べ、これからの自動車工業について考え、分析したことを基に自分なりの自動車をデザインする  
・調べたことをもとに、これからの自動車工業について話し合い、まとめることができる

問題解決の各プロセスの中で、どのようなスキルを身に付けさせたいか、また、これまで獲得したどのようなスキルを活用させたいかを示します p. 6 参照

単元設定の理由を示します  
また、シチズンシップ教育の視点から重視した指導事項等を示します

**【単元設定に当たって】**

自動車は現在の生活には欠くことのできない工業製品である。しかし、二酸化炭素や窒素化合物の排出、交通安全など様々な問題を含み、自動車製品やそれを使用する社会のルールなどをさらに改善することが求められている現状がある。消費者にとってさらに便利で、かつ、持続可能な社会を再構築していくために、こうした現状を自分自身の問題としてとらえ、自ら進んで様々な観点からこれからの自動車工業について考えられるように学習を進め、考えたことを社会に提案できるようにしていきたいと考える。

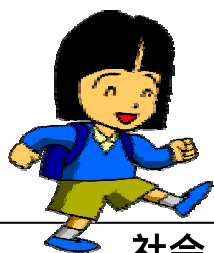


【指導計画】10時間																
時間	学習活動	スキル	シチズンシップ教育の留意点	評価規準(番号)												
1～3	身の回りのものから工業製品を見付け、自分たちの生活と工業製品がどのように結び付いているか関心を持つ 自動車の部品を作る工場が消費者や自動車工場の注文に従って仕事を円滑に進めるためにいろいろな工夫をしていることをつかむ	状況の理解	自動車のカタログなどから同じ車種でも様々な仕様があることを調べる	(関・意・能)												
4～5	自動車や部品がどのようにして運ばれていくのか、自動車の構造を理解する 自動車会社があることを調べる 方が変化していることについてハイブリッド車について調べ、ハイブリッド車の背景について調べる	情報の生産	単元の指導計画を示します スキルの欄は主として行う問題解決のプロセス、シチズンシップ教育の留意点の欄は、その時間で持たせたい「切実感」「自発性」「責任感」にかかわる教師の働き掛けを示します													
<p>【展開例】(8/10)</p> <p>(本時目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで調べたことをもとに、安全面や環境面から考えたこれからの自動車について、自分なりのアイデアをいかして提案できるようにする</li> </ul> <p>(評価規準)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しく開発されている自動車の情報を集めるとともに、自らのアイデアをいかした自動車をデザインする</li> <li>新しい自動車の開発について調べた情報を基に、自分なりのアイデアをいかしてこれからの自動車開発について提案している(考・判断)</li> </ul> <p>【展開】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習活動</th> <th>指導上の配慮事項</th> <th>スキル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新しい自動車を開発する時の着眼点をまとめる</td> <td>学習ノートやカードなどこれまでの学習について振り返り自分の資料を整える</td> <td>スキルの具体例を示します</td> </tr> <tr> <td>自分たちの提案内容をまとめる(予想される児童の反応) 「自動車を生産する際、リサイクルによって部品を作るとよい」 「自動車を生産する過程で不要な物を使ったりゴミを出したりしない」 「環境に悪影響を及ぼす排出ガスを出不さない自動車を開発する」 「交通事故を起こさない安全な自動車を開発する」</td> <td>環境や安全、利用方法や生産工程など様々な観点から提案できるように促す カテゴリーが同じものについては、個人でなくてもグループでまとめてもよいことを指示する</td> <td>調べたことをもとに、これからの自動車工業について自分なりに考え、同じ意見のグループで話し合い、まとめることができる [意思決定]</td> </tr> <tr> <td>提案内容を誰にどのような方法で伝えるかを考える(予想される児童の反応) 「自動車会社へ手紙を書こう」</td> <td>自分の提案を誰に伝えるかを明確にさせ、よりよい発信方法を考えさせる メール、手紙、ホームページ</td> <td>自分がまとめた具体的な改善案を、新たな提案として社会に提案することができる [実行]</td> </tr> </tbody> </table>					学習活動	指導上の配慮事項	スキル	新しい自動車を開発する時の着眼点をまとめる	学習ノートやカードなどこれまでの学習について振り返り自分の資料を整える	スキルの具体例を示します	自分たちの提案内容をまとめる(予想される児童の反応) 「自動車を生産する際、リサイクルによって部品を作るとよい」 「自動車を生産する過程で不要な物を使ったりゴミを出したりしない」 「環境に悪影響を及ぼす排出ガスを出不さない自動車を開発する」 「交通事故を起こさない安全な自動車を開発する」	環境や安全、利用方法や生産工程など様々な観点から提案できるように促す カテゴリーが同じものについては、個人でなくてもグループでまとめてもよいことを指示する	調べたことをもとに、これからの自動車工業について自分なりに考え、同じ意見のグループで話し合い、まとめることができる [意思決定]	提案内容を誰にどのような方法で伝えるかを考える(予想される児童の反応) 「自動車会社へ手紙を書こう」	自分の提案を誰に伝えるかを明確にさせ、よりよい発信方法を考えさせる メール、手紙、ホームページ	自分がまとめた具体的な改善案を、新たな提案として社会に提案することができる [実行]
学習活動	指導上の配慮事項	スキル														
新しい自動車を開発する時の着眼点をまとめる	学習ノートやカードなどこれまでの学習について振り返り自分の資料を整える	スキルの具体例を示します														
自分たちの提案内容をまとめる(予想される児童の反応) 「自動車を生産する際、リサイクルによって部品を作るとよい」 「自動車を生産する過程で不要な物を使ったりゴミを出したりしない」 「環境に悪影響を及ぼす排出ガスを出不さない自動車を開発する」 「交通事故を起こさない安全な自動車を開発する」	環境や安全、利用方法や生産工程など様々な観点から提案できるように促す カテゴリーが同じものについては、個人でなくてもグループでまとめてもよいことを指示する	調べたことをもとに、これからの自動車工業について自分なりに考え、同じ意見のグループで話し合い、まとめることができる [意思決定]														
提案内容を誰にどのような方法で伝えるかを考える(予想される児童の反応) 「自動車会社へ手紙を書こう」	自分の提案を誰に伝えるかを明確にさせ、よりよい発信方法を考えさせる メール、手紙、ホームページ	自分がまとめた具体的な改善案を、新たな提案として社会に提案することができる [実行]														
6～10	自動車工場の構造を深く知り、人と環境がどのように関わっているのかをまとめる 自動車会社へ手紙を書く 【展開例】															



このあとに、【学習の実際】と【考察】のページがあります。学習場面における具体的な児童・生徒の姿と、シチズンシップ教育としての考察が記載されています。

本ガイドブックで紹介する実践例



小学校



社会 第5学年

わたしたちの生活と工業生産  
自動車をつくる工業

特別活動 第5学年

児童会選挙をしよう

中学校

社会 第3学年

地域を向上させる条例を  
制定しよう

社会 第3学年

選挙制度と政党

高等学校

外国語（英語） 第2学年

INVITE PEOPLE TO  
YOUR TOWN!

特別支援  
学校

社会 知的障害教育部門  
高等部

手話ニュースを見る



## 2 小学校の実践例

社会

第5学年「わたしたちの生活と工業生産 自動車をつくる工業」

### 【単元目標】

自動車工業に従事している人々の工夫や努力、自動車生産を支える貿易や運輸について調べることを通して、工業生産が国民生活や産業を支える重要な役割を果たしていることが分かるようにする

安全や環境保全、持続可能な発展を考えながら、これからの自動車工業について考えることができるようにする

### 【単元の評価規準】(丸数字は指導計画表に対応)

自動車がどのような人々の努力と工夫によって生産されているか、興味を持って調べようとしている(関心・意欲・態度)

新しく開発される自動車について興味・関心を持ち、情報を集めるとともに、自らのアイデアをいかした自動車をデザインしようとしている(関心・意欲・態度)

新しい自動車の開発について調べたことを基に、自分なりのアイデアをいかしてこれからの自動車開発について提案している(思考・判断)

現在の自動車工業の様子、生産過程の工夫や努力についてまとめている(技能・表現)

自動車の開発・生産の現状、それに携わる人々の工夫や努力、安全や環境等を意識したこれからの自動車開発について理解している(知識・理解)

### 【シチズンシップ教育の視点】

意識	社会への参画
知識	公的・共同的な分野、経済分野
スキル	

問題の認識または状況の理解

- ・自動車工場での自動車生産や新しい自動車開発の様子を調べることによって、安全性や環境問題に対応した自動車の開発がこれまで以上に求められることを認識することができる

情報の収集・分析

- ・新しい自動車を開発する企業の取組を調べ、これからの自動車工業に求められることは何かを考え、分析したことを基に自分なりの自動車をデザインすることができる

意思決定

- ・調べたことをもとに、これからの自動車工業について自分なりに考え、同じ意見のグループで話し合い、まとめることができる

実行

- ・自分がまとめた具体的な改善案を、社会に提案することができる

【単元設定に当たって】

自動車は現在の生活には欠くことのできない工業製品である。しかし、二酸化炭素や窒素化合物の排出、交通安全など様々な問題を含み、自動車製品やそれを使用する社会のルールなどをさらに改善することが求められている現状がある。消費者にとってさらに便利で、かつ、持続可能な社会を再構築していくために、こうした現状を自分自身の問題としてとらえ、自ら進んで様々な観点からこれからの自動車工業について考えられるように学習を進め、考えたことを社会に提案できるようにしていきたいと考える。

【指導計画】 10 時間

時間	学習活動	スキル	シチズンシップ教育の留意点	評価規準 (番号)
1 ~ 3	身の回りのものから工業製品を見付け、自分たちの生活と工業製品がどのように結び付いているか関心を持つ  自動車の部品を作る工場が、消費者や自動車工場の注文に従って仕事を円滑に進めるために、様々な工夫をしていることをつかむ	状況の理解	自動車のカタログなどから同じ車種でも様々な仕様があることを知らせ、消費者のニーズが多様であることを実感させるとともに、それに応えるためにどのような工夫がなされているかを調べさせる	(関・意・態)
4 ~ 5	自動車や部品がどのようにして運ばれていくのかを調べ、消費者の注文した自動車が届くまでの間の様々な工夫を理解する  自動車会社の工場が世界に広がっている点をとらえ、自動車の生産の仕方が変化していることを理解する  ハイブリッドカーと普通車の違いを調べ、ハイブリッドカーが開発された背景について理解する	情報の収集・分析	生産過程の工夫や努力について調べたことをカードにまとめ、実際の生産ラインの中でどのように自動車が生産されているかをまとめさせる  現在どのような自動車を開発しているのか、また、その理由は何かを調べてまとめさせる (自発性)	(技・表)  (知・理)
6 ~ 10	自動車工場見学をして、学習内容を深めるとともに見聞を広める  人と環境に優しい自動車を目指してどのような研究や開発がなされているかをまとめ、自分たちのアイデアを自動車会社等に提案する  【展開例】	意思決定 実行	自動車の在り方について安全面や環境面から考えさせる (切実感)  これからの自動車について提案をまとめ、発信させる (責任感)  全くの空想ではなく、なるべく実現可能なアイデアとなるように気を付けさせる	(関・意・態)  (思・判)

【展開例】（ 8 / 10 ）

〔本時目標〕

- ・これまで調べたことを基に、安全面や環境面から考えたこれからの自動車について、自分なりのアイデアをいかして提案することができるようにする

〔評価規準〕

- ・新しく開発されている自動車について興味・関心を持ち、情報を集めるとともに、自らのアイデアをいかした自動車をデザインしようとしている（関心・意欲・態度）
- ・新しい自動車の開発について調べたことを基に、自分なりのアイデアをいかしてこれからの自動車開発について提案している（思考・判断）

〔展開〕

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
<p>新しい自動車を開発するときの着目点をまとめる</p> <p>自分たちの提案内容をまとめる （予想される児童の反応） 「自動車を生産する際、リサイクルによって部品を作るとよい」 「自動車を生産する過程で不必要な物を使ったりゴミを出したりしない」 「環境に悪影響を及ぼす排出ガスを出さない自動車を開発する」 「交通事故を起こさない安全な自動車を開発する」</p> <p>提案内容を誰にどのような方法で伝えるかを考える （予想される児童の反応） 「自動車会社へ手紙を書こう」 「自動車会社へメールを送ろう」 「ホームページに書き込みしよう」 「県や市にメールを送ろう」 「市長に手紙を書こう」</p> <p>次時に自分のアイデアを発信することを知らせる</p>	<p>学習ノートやカードなどこれまでの学習について振り返り自分の資料を整理させる</p> <p>環境や安全、利用方法や生産工程など様々な観点から提案できるように促す</p> <p>カテゴリーが同じものについては、個人でなくてもグループでまとめてもよいことを指示する</p> <p>自分の提案を誰に伝えるかを明確にさせ、よりよい発信方法を考えさせる</p> <p>メール、手紙、ホームページへの書き込みなどのそれぞれよいところを考えさせ、自分の提案がより伝わりやすい方法を選択させる</p> <p>自分が選択した方法で提案内容を発信させる</p>	<p>調べたことをもとに、これからの自動車工業について自分なりに考え、同じ意見のグループで話し合い、まとめることができる 〔意思決定〕</p> <p>自分がまとめた具体的な改善案を、社会に提案することができる 〔実行〕</p>

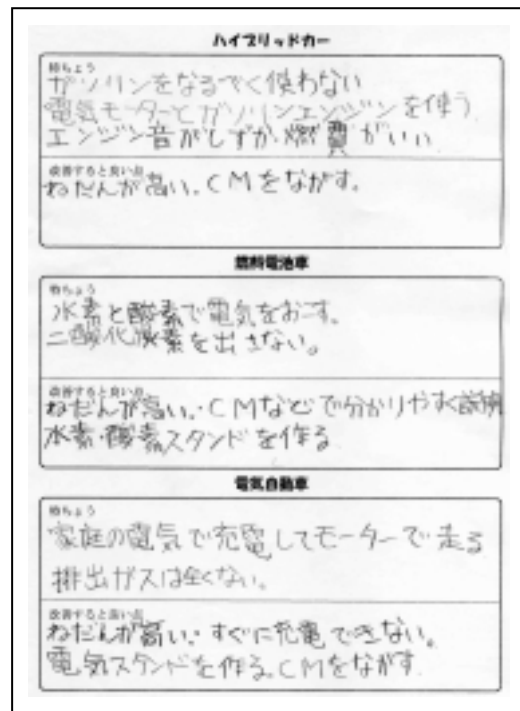


【学習の実際】

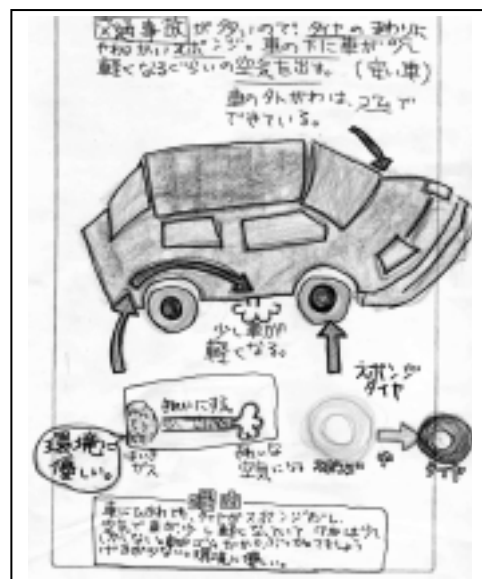
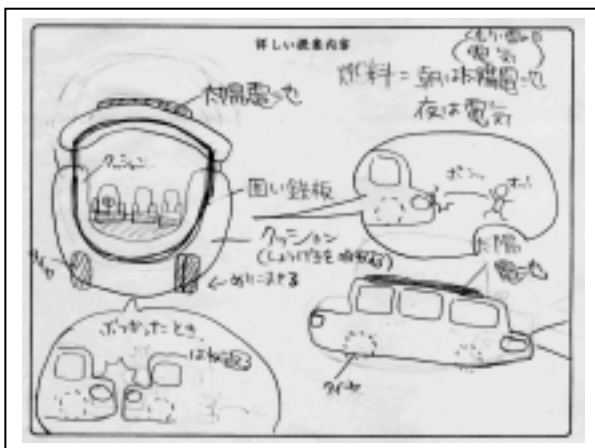
自分なりのアイデアをまとめる作業では、「持続可能な社会」を意識して、児童はそれぞれ自分なりの考えを出すことができた。学習が自動車の生産や開発を中心に進めてきたということもあって、環境と安全に配慮した自動車についてのアイデアが多かった。

単元の流れの中で、ハイブリッドカーや燃料電池車などについても学習した。それを踏まえて、環境に優しい自動車を考えたが、なかなか新しいものを発想することが難しかった。そこで、アイデアを出すときには「これは無理だ」「そんなのあり得ない」などとは考えずに、自由に発想することが大切だと助言した。

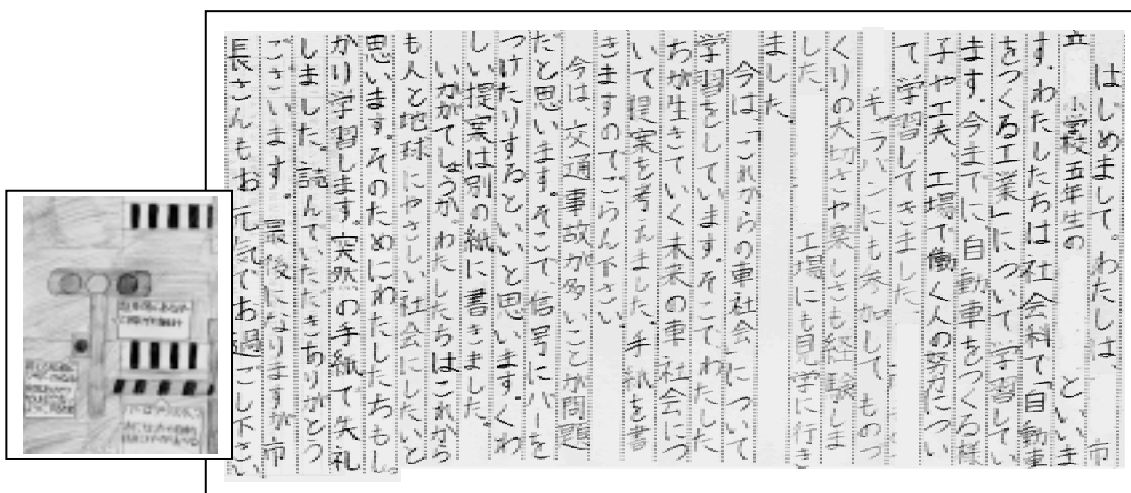
アイデアを考える際、自動車だけでなく交通システムや福祉などにも目を向けて考える児童もいた。



下図のように、自動車のかたちを安全面から工夫しているものや、排気ガスをクリーンにするもの、リニアモーターカーの仕組みを取り入れるものなど、子どもらしいアイデアが数多く出された。また、信号や道路に工夫を凝らして交通事故を減らすことを目的としたものや、視覚障害のある方が運転できる自動車などのアイデアも出された。中には飲酒運転防止のために息を吹きかけないと動かない車や運転者が見にくいところにカメラを付けるなどのように実際に取り入れられているものも出されたが、これらについても児童が考えたアイデアとして認めた。



児童のアイデアは「私の提案」として、個人のカードにまとめた。この提案を発信する方法としては、手紙やメール、ホームページへの書き込みなどの意見が出されたが、メールやホームページでは、文章表現が中心となるので自分の提案が上手に表現できないといった理由や、せっかく書いたカードをいかしたいということから手紙にすることとなった。絵や文で説明したこれらのカードに手紙を添えて、その内容によって市長と自動車会社へ送付することとした。



児童の提案に対して、市長から回答をいただいた。

さっそく送られてきた返事の手紙に、児童は「本当にお手紙が来た」「私たちの提案を読んでもくれた」と大喜びであった。

自分たちがアクションを起こしたことに対する反応があったことで、社会参加したという実感を味わうことができた。

特にありがたかったのが、単に児童の提案を受け止めるだけではなく、実現性の乏しい提案については、理由を添えて明確に困難さを説明していただいた点である。児童は現実を直視し、社会に提案していくことの難しさを実感できたのである。

二酸化炭素の排出量の削減と電気自動車の普及を主張する A さんの提案に対する市長の回答



.....

二酸化炭素の削減と電気自動車の普及については、県が電気自動車を買うときの税金を安くしたり、高速道路の料金を安くしたりすることで、電気自動車の普及に努めています。市も大切な地球環境を守るため、しっかり取り組んでいきたいと思えます。

.....

(市長)

## 【考察】

今、地球的規模で環境を考え「持続可能な社会」を実現するために様々な側面から研究・実践が行われている。これについては、学校教育でも環境教育や理科・社会といった教科などで取り組んでいるところである。小学校においては、身近な問題として、資源分別回収やエコキャップなどの取組を進めている。しかし、多くの児童は、二酸化炭素排出量が増大して地球温暖化が進んでいることを情報としては知っているものの、自分がどのようにかかわっていけばよいのかという具体的な方法を知っているわけではなく、切実感もなかった。当然、自分の考えを発信するのは「教室の中で」というとらえであった。

本単元では、学習したことを基に自分から外へ提案するという目的があったので、児童はそれを新鮮に受け止め、自発的に取り組んだ。いろいろな情報を収集することはもとより、工場見学の際にも、製造工程に感嘆するだけでなく「こうすればよい」という自分の視点を持ちながら見学する児童もいた。自らが学習したことやこれまでの経験を基に思考を深めることができ、とても有意義であった。

学習したことをまとめたり発表したりして単元を終わることが多かったこれまでの学習活動に、シチズンシップ教育として一歩外に踏み出す活動を加えたことで、頭の中での理解にとどまっていた内容が、実感をともなった理解になり、学習指導要領の社会の内容をより深めることにもなったと言える。

具体的な提案の中身について言えば、教師は児童の自由な発想を大切にし、どのようにすれば人と環境に優しい車社会を実現できるかというアイデアを出させるようにした。児童からは、一見実現不可能かとも思われるアイデアもあれば、自動車の周りにセンサーを付けて事故を減らす、ETCを増やす、といった現実的なアイデアもあった。もう少し時間数を確保することができれば、さらなる調査を行い、より具体的な提案につなげることができたであろう。受ける側に「なるほど参考になる」と受け止めてもらえるような提案になることが大切であることが分かった。



また、この学習では児童が自分の意図を伝える手段として手紙を書くことにした。できれば直接相手に届けたり説明したりするという形の方が、より責任感を持って提案することができたであろう。この点は今後の課題である。

児童が積極的に社会に参画するためには、様々な事象を知り、自ら経験を重ねることが重要であると考えられる。その上で、自ら考えたことを的確によりよい手段で伝えていくことが必要である。今回、児童にとっての「社会」は、自動車会社や市であったが、発達の段階に応じて、身近な地域、市町村、国といった段階を経る系統的な指導を考えることも必要であろう。

## 特別活動

## 第5学年「児童会選挙をしよう」

### 【題材目標】

児童会活動を中心となって行うとの自覚を持ち、児童会のリーダーを選ぶ方法としての「選挙」について関心を持ち、選挙の仕方や意義について理解し、自分で考え、正しく判断する力を高めることができるようにする

### 【題材の評価規準】(丸数字は指導計画表に対応)

来年度、児童会活動を中心となって行う6年生になるという自覚を持ち、児童会のリーダーを選ぶ方法としての「選挙」について関心を持つ(関心・意欲・態度)  
どのような観点でリーダーを選んだらよいかを考え、判断している(思考・判断)  
自分たちの行った選挙が望ましいものであったかどうかを客観的に評価することができる(思考・判断)  
立候補や推薦の理由などを、熱意を持って分かりやすく話すことができる(技能・表現)  
児童会役員選挙のシミュレーションを通して、自分の考えを表現したり、工夫して運営にかかわったりすることができる(技能・表現)  
選挙の仕方や意義について理解している(知識・理解)

### 【シチズンシップ教育の視点】

意識	自分自身、他者とのかかわり
知識	政治分野(選挙の仕方と意義)
スキル	問題の認識または状況の理解 ・立候補者の考えや態度が、それぞれ異なることを認識することができる ・自分たちの行った選挙が望ましいものであったかどうかを客観的に評価することができる 情報の収集・分析 ・選挙の仕方や意義などを市の選挙管理委員会の方から聞いたり、立候補者の演説の中から必要な情報を収集し分析したりすることができる 意思決定 ・立候補者は、どのような学校にしたいか明確な意思を持つことができる ・投票者は、自分の考えを実現することができる人物を選ぶことができる 実行 ・演説会で、熱意を持ち、分かりやすく話すことができる ・演説を聞いて、児童会のリーダーとしてふさわしい人物を選んで投票することができる

### 【題材設定に当たって】

児童会活動は、学校生活の充実と向上を図るため、児童が自発的・自主的に行う活動である。しかし、現実には前年度に行ったことを繰り返すだけのマンネリ化した活動になったり、教師の

指示を待ちながら行う活動になったりすることが少なくない。そこで、児童会役員選挙のシミュレーションを行い、自分たちの手でリーダーを選び、自分たちの手で児童会活動を行うという意欲を持たせたいと考え、この題材を設定した。

児童会役員選挙は最近行われなくなってきた。小学生が人を選ぶことは難しく、人気投票になりがちということが一つの理由と言えるが、逆に、児童にしっかりと選挙の仕方や意義を理解させ、正しい選挙を行う力を付けさせることが大切なのではないだろうか。それが児童会活動を自発的・自主的な活動にする第一歩であり、児童に市民性を養う第一歩だと考える。

【指導計画】 3時間

時間	学習活動	スキル	シチズンシップ教育の留意点	評価規準(番号)
1	<p>来年度6年生となり、児童会を自分たちが中心となって行うことに対する期待や不安を出し合う</p> <p>児童会のリーダーを決める方法の一つとして「選挙」があることを知り、「選挙」について知っていることや疑問に思うことなどを話し合う</p> <p>市の選挙管理委員会の方に来ていただき、選挙の仕方や意義について理解を深める</p>	<p>状況の理解</p> <p>情報の収集・分析</p>	<p>児童が持つ「選挙」のイメージを大切にして素朴な疑問や身近な疑問から話し合いを深めるようにする</p> <p>(切実感)</p>	<p>(関・意・態)</p> <p>(知・理)</p>
2	<p>前時を振り返り、児童会役員選挙のシミュレーションを行う準備をする</p> <p>児童会役員選挙のシミュレーションを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補者を募る</li> <li>・推薦者を募る</li> <li>・立会演説会の準備を行う</li> </ul>	意思決定	<p>選挙のルールを決める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補者は立候補する理由を持つこと</li> <li>・立候補者には推薦者が一人以上いること</li> </ul> <p>(自発性)</p>	(技・表)
3	<p>児童会役員選挙のシミュレーションを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立会演説会を行う</li> <li>・投票を行う</li> <li>・開票を行う</li> <li>・選挙結果を発表する</li> </ul> <p>自分たちの行った児童会選挙について振り返り、自己評価する</p> <p>【展開例】</p>	<p>実行</p> <p>(新たな)状況の理解</p>	<p>立候補者や推薦者は、自分の言動に責任を持つことを確認する</p> <p>(責任感)</p> <p>児童の行った自己評価を公表し、選挙についての認識や理解を深められるようにする</p> <p>(切実感)</p>	<p>(技・表)</p> <p>(思・判)</p> <p>(思・判)</p>

【展開例】（ 3 / 3 ）

〔本時目標〕

- ・ 児童会役員選挙のシミュレーションを通して、よりよい選挙の在り方を考えることができるようにする

〔評価規準〕

- ・ 立候補や推薦の理由などを、熱意を持って分かりやすく話すことができる（技・表）
- ・ どのような観点でリーダーを選んだらよいのかを考え、判断している（思・判）
- ・ 自分たちの行った選挙が望ましいものであったかどうかを客観的に評価することができる（思・判）

〔展開〕

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
<p>前時を振り返り、公正な選挙の仕方や意義などを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演説の上手下手だけでなく、責任感や実行力などを読み取って判断する</li> <li>・ 選挙公約については、内容がよいかどうか、実現可能かどうか、などで判断する</li> </ul> <p>立会演説会を行う</p> <p>投票を行う 開票を行う 選挙結果を発表する (予想される児童の反応) 「どの候補もよくがんばった」 「みんなのために役立つことをしようという気持ちがすてきた」</p> <p>自分たちの行った児童会選挙について振り返り、自己評価する (予想される児童の反応) 「選挙の大切さがよく分かった」 「初めは立候補する人が大事だと思ったが、終わってみて、投票する私たちが一番大事だと感じた」 「自分たちのことは自分たちで決めて実行することが大事だと分かった」</p>	<p>演説の巧拙だけにとらわれず、責任感や実行力などに裏付けされたものかどうか考えながら聞くなど、演説を聞くポイントを模造紙に示して確認し、それを児童が見える位置に掲示する</p> <p>立候補者や推薦者は、自分の言動に責任を持つことを確認する</p> <p>落選してもみんなのために役立つとした気持ちがよかったことを強調し、選挙結果で立候補した児童の心が傷つかないように配慮する</p> <p>児童の行った自己評価を公表し、選挙についての認識や理解を深められるようにする</p>	<p>演説会で、熱意を持ち、分かりやすく話すことができる 〔実行〕</p> <p>演説を聞いて、児童会のリーダーとしてふさわしい人物を選んで投票することができる 〔実行〕</p> <p>自分たちの行った選挙が望ましいものであったかどうかを客観的に評価することができる 〔(新たな)状況の理解〕</p>

## 【学習の実際】

### ( 1 / 3 時間目 )

学校のリーダーとなる児童会役員について話をした後、リーダーを決める方法として「選挙」があることを知らせた。そして、市の選挙管理委員会から借りてきた本物の投票箱を見せ、今日から3時間、選挙について学習していくことを確認した。

次に、ワークシートを使い、選挙について知っていることを書いて発表させた。すると、すぐ「総理大臣を決める」という発言が出て、国民が直接総理大臣を選挙できると誤解している児童が多いことが分かった。しかし、「国や県の代表を決める」「立候補して市民にアピールする」などの発言もあった。

そして、このワークシートを基に、選挙について疑問に思うことや不思議に思うこと、知りたいことを発表させた。たくさん出た疑問等について、ゲストティーチャーとして来ていただいた市選挙管理委員会の方に答えていただいた。

授業後の児童の感想では、

- ・選挙は国になくってはならないものだと分かった。
- ・投票した人にそんなに責任があるなんて初めて知って、びっくりした。
- ・選ばれる人が、ふつうの市民だとは思わなかった。
- ・なぜ自分をアピールするかは、「自分はこんなことをしてみんなの役に立ちたいんだよ」と知ってもらって、投票してもらうためだと分かった。

など、素直な言葉が並んだ。

### ( 2 / 3 時間目 )

まず、教師が「先生が子どもどころあった児童会選挙を“選挙の学習”としてやってみよう」と言って『児童会選挙をしよう』という課題を提示した。

次に、「児童会長は、どんな人になってほしいかな？」と問いかけた。児童からは、まとめる力がある人、責任感がある人、頭がいい人などいろいろな意見が出たが、教師は、ある児童の「この学校をよくしようという人」という意見を取り上げて更に話し合い、“この学校をよくしようという意見を持ち、それをしっかり言える人”がふさわしいということになった。

そして、児童は、「もし、児童会長になったら、こんな学校にしたい」という抱負を考えた。そして、それをしっかり言えて、1人以上の推薦者がいることを条件に立候補を募った。最終的に、6人の立候補者が決まり、選挙の立会人も2人決めた。

その後、立候補者と推薦者の児童は、立会演説会の原稿を考え、たすきや選挙ポスターも作った。他の児童は、投票用紙や投票所、演説会のプログラムなどを作った。



### ( 3 / 3 時間目 )

立会演説会を行った。立候補者 6 人の演説の要旨は、次のとおりであった。

- A : 学校にいろいろな物を持って来て、休み時間に、マンガを読んだりゲームで遊んだりできる学校にしたい。
- B : みんなが明るく、いじめなく、仲良く、毎日楽しいと思う元気な学校にしたい。
- C : けんかをなくし仲良くできる学校、好きな物を持って来て休み時間にリラックスできる自由な学校にしたい。
- D : 自然いっぱい为学校にしたい。なぜなら、自然がいっぱいなら空気がよく、勉強しやすい環境になるから。1 年中、緑いっぱい花いっぱいの学校にしたい。
- E : 自分で好きな勉強を決めてやりたい。なぜなら、得意な教科と苦手な教科があり、自分で決めれば苦手な教科がなくせて、勉強が楽しくなり、やる気が起きるから。
- F : 明るく楽しく元気のいい学校、みんな仲良く仲間はずれがない学校にしたい。



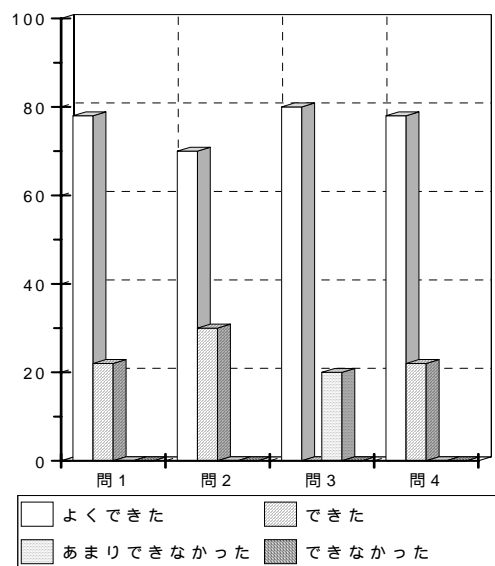
演説の後、投票が行われ、立会人 2 人と推薦者各 1 人で開票が行われた。立会人は、1 票 1 票推薦者に見せて確認し、集計した。その結果は、教師の判断で、児童会長に選ばれた 1 人のみを発表した。大接戦だったが、1 票差で当選したのは A さんだった。児童は、最後に、振り返りシートに記入し、自分たちが行った児童会選挙を振り返った。



### ～振り返りシートより～

- 問 1 立候補者の演説をよく聞いて、自分で考え判断して投票ができたか。
- 問 2 立候補者が演説したことを、学校全体のみんなのことを考えて正しいかどうか判断して、投票することができたか。
- 問 3 学校全体のみんなのことを考えて、自分の意見をまとめ、演説することができたか。(立候補した人だけ)
- 問 4 自分たちは、よいリーダーを選ぶ、よい選挙ができたか。

\* それぞれ「あまりできなかった」「できなかった」に を付けた児童はその理由を書いた。最後に 3 時間を振り返り、感想を書いた。





教師が振り返りシートを見直したところ、当選したAさんが、問3で自己反省して「あまりできなかった」に を付け、「自分のことばかり思ってしまい、他の人のことを考えていなかった」と書いていた。また、自分たちが行った選挙を反省している児童もいた。そこで、次の日、もう1時間振り返りの時間を取ることにした。

#### (4/3時間目 追加の1時間)

まず、教師が、当選したAさんの主張を児童に確認し、「学校にいろいろな物を持って来てよいとなったら、何を持ってきたいか？」と問うと、児童は口々に、ゲーム機・マンガ・カード・携帯電話等を挙げた。このあと教師は、昨日の振り返りシートの中から「あんまり自由すぎるとけんかがおこる」「学校にゲームなどを持って来ると、勉強ができなくなってしまう」という感想があったことも紹介した。

ここで話し合いの時間をとり、各自の考えを出し合うようにさせたところ、「自由に好きな物を持ってきていいとなったら、学校はよくなる」という意見が22名になった。教師が「選挙をしたのに、なんでこんなことが起きてしまったのか？」と問うと、

- ・自分の意見に責任を持っていなかった。
- ・深く考えていなかった。
- ・好きな物を持ってきたいというだけで投票したが、もう一度考えると、この方が自分がよほどしっかりしていないとできないから、ちゃんと考えて投票すればよかった。
- ・当選した人の責任ではなく、先のことを考えないで投票した人の責任だ。

という発言が児童から続いて出てきた。

最後に、教師は、「“自分で考え判断しよう”という学習だった。今日の授業では、みんなはしっかりと判断できていた。選挙にはこの判断が必要だ。選挙をすることは責任があるのだということを、みんなは今日本当に学ぶことができた」と締めくくった。

#### 【考察】

このシチズンシップ教育の実践授業のねらいは、三つあった。

「選挙について関心を持つ」と「選挙の仕方や意義について理解する」については、十分に目標に達したと考える。そして、それは、ゲストティチャーとして来ていただいた市選挙管理委員会の方の力によるところが大きかった。本物の投票箱を持って来ていただき、児童の素朴な疑問に対して、ていねいに分かりやすく答えてくださった。また、模擬選挙を行う際に児童が迷ったとき、すぐにアドバイスしてくださった。これらのことにより、児童は、選挙を身近な切実感のあるものと感じ、この学習をたいへん意欲的に進めることができた。

「自分で考え、正しく判断する力を高める」については、なかなか難しいものを感じた。児童は、予想以上に、自分の利益だけを優先し、それが、学校全体にどう影響を与えるかを考えることができなかった。しかし、4時間目の振り返りで、多くの児童が自分達の考えを見直すことができ、これがまさに切実感・責任感を持って問題を考えたシチズンシップ教育にほかならない。

本実践から、児童がもっと社会に関心を持ち、「自由と責任」「個人と社会」「地球環境や世界平和」などについて話し合い、“自分で考え、正しく判断する力”を高めながら社会に意欲的に働きかける力を付けることが必要である、ということが言える。

### 3 中学校の実践例

社会

第3学年「地域を向上させる条例を制定しよう」

#### 【単元目標】

地方自治の基本的な考え方について理解することができるようにする  
地方公共団体の政治の仕組みについて理解するとともに、住民の権利や義務を意識し、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を持つことができるようにする

#### 【単元の評価規準】(丸数字は指導計画表に対応)

身近な生活の向上のために、都道府県や市町村の政治が深くかかわっていることに興味を持つ  
(関心・意欲・態度)  
住民としての自覚を持って、身近な生活の中の問題に関心を持つ(関心・意欲・態度)  
生活の中にある問題や政治的な課題について調べ、考えることができる(思考・判断)  
地域社会の問題について、地域住民の自覚を持って事実を見つめ、的確に判断をしている  
(思考・判断)  
都道府県や市町村の政治に関する資料を積極的に収集し、整理している(技能・表現)  
収集した資料を再構成して発表したり、発表を聞いて意見を述べたりしている(技能・表現)  
都道府県や市町村の政治のしくみ、地方自治の原則と住民の権利について理解している(知識・理解)

#### 【シチズンシップ教育の視点】

意識	社会への参画
知識	政治分野(地方分権と住民参加)

スキル
問題の認識または状況の理解 ・自分の感じる問題点と友達を感じる問題点の相違を冷静に認識することができる ・直接、間接の経験や実感から、問題の現状を批判的な視点から冷静にとらえることができる 情報の収集・分析 ・観察や調査を通して事実を正しく把握し、観点に基づいて整理することができる ・必要な情報を収集したり説得力ある説明を考えたりすることができる ・資料・情報を正確に読みこなし、批判的な視点から分析をすることができる 意思決定 ・観察や調査の結果を踏まえ、根拠に基づいて自分の意見を述べる ・お互いの意見を尊重しながら話し合いを進め、合意点を探す努力をすることができる ・話し合っている内容が実行可能なものかどうか判断することができる 実行 ・公民としての生活体験や現実感覚に基づいて問題を考え、実行していくことができる ・自分たちが出した結論が現実の社会の問題につながるものであるかどうかを、常に吟味しながら実行していくことができる

【単元設定に当たって】

中学校学習指導要領の社会の内容「(3)現代の民主政治とこれからの社会」の「イ 民主政治と政治参加」を扱った単元である。

ここでは、単元目標に迫るために、実際に県民・町民の一員としての切実感を持たせるように模擬議会活動などを取り入れた。また、具体的な調査や見学などを生徒たちが自発的に行うように、学び方等の支援を行った。この学習によって、民主主義の発展と充実を担う一員としての責任感を身に付けさせることができるように意識して取り組んだ。

【指導計画】 4 時間

時間	学習活動	スキル	シチズンシップ教育の留意点	評価規準(番号)
1	例示する問題が、国、県、町のうちどの行政機関が担う仕事か考える 現実の日常生活の問題の中で、地方公共団体にかかわるものについて考え、意見を出し合う	状況の理解	日常の様々な問題を扱い生活を向上させる仕事を行政機関が分担し、役割を果たしていることに気付かせる 実際の地域社会の問題について意見を出し合いながら焦点化させる(切実感)	(関・意・態)  (関・意・態)
2	各自で日常の地域生活(県・町)の中で、問題に感じている事柄を出し合い、条例案を作成する インターネット等を活用し、全国の都道府県、市町村の情報を収集、分析し、自分の地域の抱える問題点を見だし、条例案作成に役立てる	情報の収集・分析	現在ある都道府県・市町村条例を例示する 作成した条例案が地域にとって本当に必要か、現実的か、自分に問いかけさせる (自発性)	(思・判)  (技・表)
3	県民・町民の一員としての意識を高めるために模擬議会を開き、条例案を提案、審議し採決する 【展開例】	意思決定	議会形式の討論を行う 採決の結果よりも討論の経過を重視する 特に公民としての提案・質問・意見であるかを意識させる (責任感)	(思・判)  (技・表)
4	模擬議会で審議された提案を実際の地方公共団体の政治に反映させるためにはどうすべきか方策を考え、実行に移す	実行	地方公共団体に対する請願・陳情がどのように扱われ、処理されたかを町会議事録等を調べ、整理し、確認させる	(知・理)

【展開例】（ 3 / 4 ）

〔本時目標〕

- ・ 地方公共団体の政治の仕組みについて理解するとともに、住民の権利や義務を意識させ、模擬議会に参加させる
- ・ 収集した資料を再構成して発表したり、自分の考えを持って討論したりすることができるようにする

〔評価規準〕

- ・ 収集した資料を再構成して発表したり、発表を聞いて意見を述べたりしている（技能・表現）
- ・ 地域社会の問題について、地域住民の自覚を持って事実を見つめ、的確に判断をしている（思考・判断）

〔展開〕

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
<p>模擬議会の進行の流れを聞き、これから行う作業的な活動を把握する</p> <p>開会を宣言し、事前に提出した第1号条例案を代表生徒が提案する</p> <p>ワークシートを元に条例案を提案する （予想される生徒の条例提案例） 「私は『（条例）』を提案します」 「提案の理由を説明します『 』」 以上の理由によりこの条例は必要と思われまますので提案します」 条例案に対して、賛成・反対の両論から意見を出し合い、討論を行う</p> <p>条例案に対して、賛成・反対の採決を行う</p> <p>上記と同じような流れで二つ目の条例案として、第2号条例案の提案を行う</p>	<p>実際の地方議会を再現させるが、細かな部分にこだわらない</p> <p>日常的な切実感の伴う条例案を作成した生徒を代表とする</p> <p>生徒自身の経験を踏まえた切実感のある提案になるようにする</p> <p>他の地方公共団体の実例なども交え、条例案を提案できるように事前に指導する</p> <p>条例案に対する論点が見いだせないようであれば、「どれだけ切実な問題であるのか、またその問題の解決に結びつく条例であるのか」を意識させるようにする</p> <p>表面的な印象ではなく、あくまで地域の向上に役立つかどうかを基準に採決に入るよう意識させる</p> <p>第1号条例案とはできるだけ違った分野の提案をさせる</p>	<p>観察や調査の結果を踏まえ、根拠に基づいて自分の意見を述べるができる 〔意思決定〕</p> <p>お互いの意見を尊重しながら話し合いを進め、合意点を探す努力をすることができる 〔意思決定〕</p> <p>話し合っている内容が実行可能なものかどうか判断することができる 〔意思決定〕</p>

<p>模擬議会で審議、可決された提案を、実際の地方公共団体の政治に反映させるためにはどうすべきか、方策を考える準備を行う</p>	<p>地方公共団体に対する請願・陳情がどのように扱われ処理されたかを町会議事録等を調べ、整理し、確認する準備をさせる</p>	
--	--	--

【学習の実際】

( 1 / 4 時間目 )

右図〔ワークシート1〕を使って、地方公共団体の役割、業務をグループで話し合いながら確認を行った。また、地方公共団体と自分とのかかわりを認識させるため、実際に県庁、町役場等の行政機関へ出向いた経験を話し合わせた。これまで行政機関へ出向いた経験のある生徒も多かった。また、全く経験のない生徒については、グループの仲間の経験を聞き、記述していった。まとめとして、自らの生活の中で、地方公共団体のかかわる問題を書かせ、次回の条例案作成につなげさせた。

( 2 / 4 時間目 )

前時の〔ワークシート1〕で「現在の私たちの生活上の問題で地方公共団体がかかわることを挙げてみよう」で列挙した課題、問題の解決に向けた条例を右図〔ワークシート2〕で立案した。条例案の作成にあたっては、グループ学習の形態で行った。グループ内で意見を交換し、学び合いながら問題に対する地域の一員としての切実感を高めた。

条例案作成にあたっては、インターネットで全国の自治体の先行事例を調べながら行った。

生徒Aは、日常生活の切実感から、地域の街灯の少なさを問題点として挙げ、街灯設置条例を作成した。先行事例がないか、調査したところB市で街灯設置条例があり、50m以上の間隔で街灯を設置する旨市条例で定められていることを知り、街灯の設置も条例がよりどころとなっていることに驚きを示していた。

ワークシート1

ワークシート2

### ( 3 / 4 時間目 )

生徒の提出した条例案の中から、切実感・自発性の高いものを代表として提案させた。あるクラスでは、「街灯設置」「学力向上」「所有地明確化」の各条例案を審議した。議長は教師が行い、提案者が〔ワークシート2〕に従い提案を行った。教室には向かい合わせの議場をイメージする配置とした。

「街灯設置条例案」の審議では提案者が、先行自治体の条例を示しながら、地域の現状をかんがみて必要性を訴えていたが、反対討論の中で街灯一基あたりの価格の問題への質問や、町の予算総額への追及があった。提案者は、インターネットで調べたデータを基に答弁をしていた。普段意識していない地元自治体の予算についても新たな知識を得ていた。賛成、反対の討論終了後の採決で賛成多数で可決されることとなった。



「学力向上条例案」では、最近の学力問題の影響を受けた中での生徒の提案であった。学力を向上させるために、年1回の進級試験を行い、その結果次第では飛び級を認め、学校を活性化するという条例案であった。質疑に入ると、反対意見が多く、異年齢となると集団生活の上で問題となるのでは、などの質問が多く出た。提案者は、海外の事例などを提示し、そうはならないと反論していたが、採決の結果は反対多数で否決となった。



「所有地明確化条例案」では、提案者が自らの体験に基づいて、ある業者が私有地と公有地を混同して使用していることを示し、町全体できちんと所有地を明確化できる目印や区画を義務づけるべきであると提案した。質疑応答の中では、提案者の実情は分かるが、個人的なもので町全体の条例とするべきものなのかという反対意見が出された。賛成意見としては、所属校自体も門塀がなく、外部の人が校地内に容易に入れる構造となっている例を挙げ、町として所有地を明確化していく条例は必要であるとの考えが示された。採決は接戦であったが、やはり町全体として必要性、切実感の点で説得力がいま一つで否決された。



### ( 4 / 4 時間目 )

模擬議会での討論後、生徒の中から、模擬議会でも可決された条例について、実際に県や町議会に取り上げてもらう方法はないのかという質問がでた。インターネットを利用し調査した結果、「請願」という日本国憲法の請願権に基づき地方自治法第124条の規定で議員1名以上の紹介により請願書を提出する権利と、「請願」と同じく議会に対し要望、希望を伝えるもので、法的根拠はないが、議会で請願と同様に取扱う「陳情」という二つの方法があることが分かった。生徒は、地方自治に市民として積極的に参加していく手立てのあることを、実感を持って学んでいった。

## 【考察】

授業の前後での聞き取り調査（次ページの《参考資料》を参照）から、次のような生徒の変容が分かる。

地方公共団体の仕事への理解は、授業前は「よく知っている、知っている」が27%であったが、授業後は77%と大幅に増えた。これは、条例案作成過程の中での調べ学習などで、地方公共団体への知識を得ていった効果と言える。

地方公共団体の仕事への興味については、授業前は「大変興味がある、興味がある」が29.7%と低いものであったが、授業後は63.5%と興味関心を抱く生徒が増えた。生徒は、条例案の作成過程で、地方公共団体の仕事を知り、自分たちの生活に大きくかかわっていることを実感し、興味・関心を高めたとと言える。

地域の向上に自発的に取り組もうという意識は、「非常に思う、思う」が60.8%と、授業前から肯定的意見は高かった。しかし、具体的に何が地域の問題・課題なのか、何が地方公共団体の仕事なのか、という点は明確でなく、興味・関心に結びついていなかったと言える。授業後は77%と、さらに肯定的意見が増えている。これは、条例案の作成過程の中でさらに地方公共団体の役割と仕事が、自らの生活に切実なものであると実感し、自発性が高まったものと言える。

地方公共団体の仕事の大切さについては、授業前は「非常に実感している、実感している」という肯定的意見が43.3%であったが、授業後は93.1%となった。「特に実感していない」という生徒は0%であった。これは、条例案作成と模擬議会での提案という学習過程によって、生徒がより地方の政治に当事者意識と切実感を高めていったものと言える。

地方自治（地方公共団体）に貢献したいという意欲は、授業前でも「非常に思う、思う」が62.1%と高かったが、授業後は75.6%と、さらに高まった。学習を通して生徒は市民として地域に積極的に貢献したいという意欲を高めることができた。

学習後の生徒の感想などからも言えることは、本単元が社会の目標を十分達成しているだけでなく、生徒に市民性をはぐくむ好機となったということである。

生徒は、地方公共団体について知識としては持っている。また、地域に貢献したいという意識はある。それを今回のシミュレーション学習で実感を持って理解できたと言える。

自分たちで条例案を作成してみようという取組は、「だれかがやってくれている」という他人（ひと）ごとではなく、すべて自分たちの問題として考えていかなければならないものである。条例を通過させることができるかどうかは、自分たちにとって切実な問題である。そのためには、相手を説得できるものを示さなければならない。自発的に情報を収集することも必要であるし、いろいろな場面で積極的に動いたり働きかけたりしなければならない。このような経験を通して生徒は、シチズンシップのスキルを少しずつ身に付けていったのである。

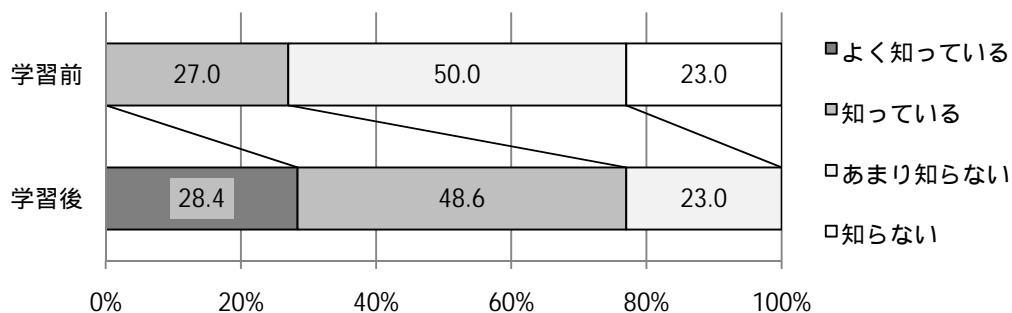
ここでの学習成果をさらに発展させて、地方公共団体に直接働きかける活動も考えられる。そうした取組は生徒側だけでなく、地方公共団体側にとっても新鮮な刺激となるであろう。

## 《参考資料》

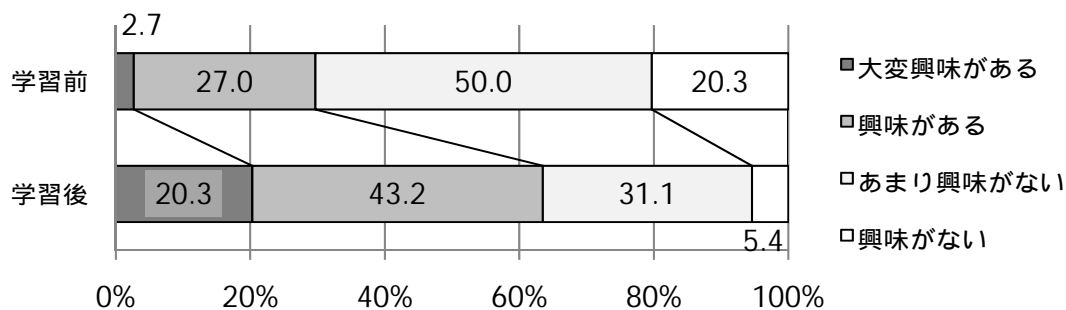
第3学年の生徒全員（74名）の授業前・授業後の聞き取り調査結果の概要



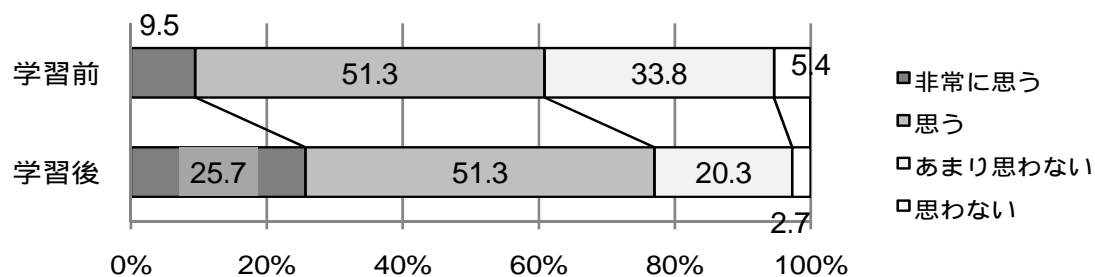
### 【地方公共団体の仕事を知っていますか】



### 【地方公共団体の仕事に興味がありますか】

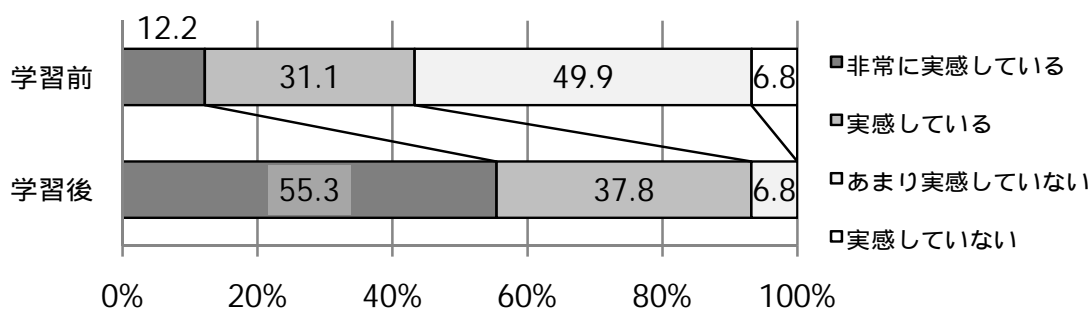


### 【地域の向上に自発的に取り組もうと思いますか】

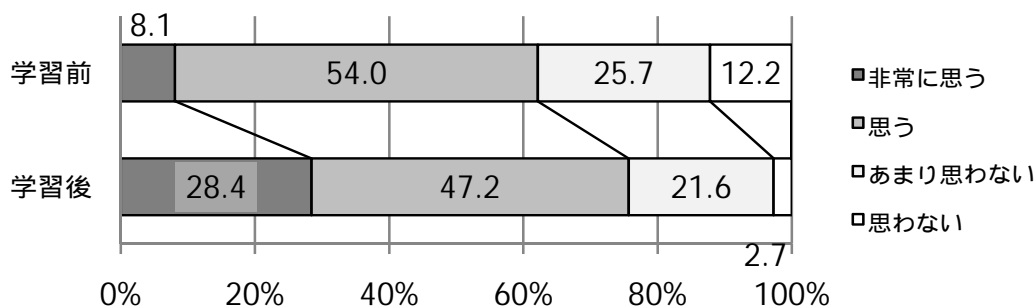




【地方公共団体の仕事の大切さを実感していますか】



【地方自治（地方公共団体）に貢献したいと思いませんか】



学習終了後の生徒の感想（一部）

本当に議会が私たちの必要としている条例を制定してくれるかとても気になった。今までこんなに深く考えたことはなくて、政治が勝手にやってくれるものと思っていた。授業前は行政なんて私たちにはあまりかわりがないと思っていたが、私たちの生活に欠かせないものであることがよく分かった。

条例の制定にあたっては、自分の考えだけではなくて、他者の視点も考えなければいけないこと、地方公共団体の仕事が予想以上に多いことが分かった。

法律に違反していないか確認しながら条例を作ることは大変だ。みんなで話し合っていて考える中で自分では見えなかったことが見えてきた。

模擬議会は思ったより大変だった。討論をすると、自分にもかかわってくる問題については否定的な意見もたくさん出てくる。条例を作るには一方にだけ偏った意見だけではなくて、いろいろな方向から問題点を考え、解決していくことが必要だと分かった。

みんなが一つの問題に対して同じ考えを持つようになって初めて条例が制定できるのだと実感した。

面白かった。まるで、自分が町の政治に直接かかわっているようだった。



【単元目標】

選挙制度の仕組みを理解し、その仕組みが国民の意見をよく反映させ得るものでなくてはならないことに気付くようにする  
 政党の役割を理解し、その在り方について考えることができるようにする  
 自らの政治感覚を高め、選挙の意義を理解することができるようにする

【単元の評価規準】(丸数字は指導計画表に対応)

政治に参加することや投票をすることへの関心を持つ(関心・意欲・態度)  
 国政に対する自分の意見を持って模擬選挙に参加している(思考・判断)  
 複雑な選挙の仕組みが分かり、実際にドント方式の計算を行うことができる(技能・表現)  
 民主政治のあらましや政党政治の役割について理解している(知識・理解)

【シチズンシップ教育の視点】

意識	社会への参画
知識	政治分野(民主政治と政治参加)
スキル	<p>問題の認識または状況の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国政に興味を持ち、批判したり共感したりしながら、自分の考えを持つことができる</li> </ul> <p>情報の収集・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞などから情報を収集し、理解することができる</li> <li>・相手に共感してもらうために、意見のまとめ方や伝え方を工夫することができる</li> </ul> <p>意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力して政党づくりや演説原稿づくりなどを行うことができる</li> </ul> <p>実行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめ、演説することができる</li> <li>・ドント方式の仕組みに従って選挙の結果を出すことができる</li> </ul>

【単元設定に当たって】

本単元は、公民的分野の内容の、私たちと政治「イ 民主政治と政治参加」を扱ったものである。教科書を基に進める学習も大切であるが、一つのテーマを追究した学習活動を行うことも、生徒に「自ら考えようとする態度」を育てる上で有効である。

ここでは、「小選挙区比例代表並立制」をテーマに取り上げ、この学習を通して、選挙制度の工夫点に自ら気付くようにさせたい。そして、さらに選挙への興味を持たせ、新聞を読むことを習慣化させたり投票することを意識化させたりしていきたいと考えた。

複雑化した選挙制度をあえて取り上げたのは、可能な限り体験的に扱うことによって、選挙権及び被選挙権について切実感を持って考えることができるからである。

【指導計画】 5時間

時間	学習活動	スキル	シチズンシップ教育の留意点	評価規準 (番号)
1	選挙と政治参加、代表者の選び方について理解する		政治と選挙についての関心を高めさせる	(知・理)
2	選挙の仕組みと政党、わが国の選挙制度について理解する 「テーマ学習」【展開例】 ・政党づくりを行う ・党の主張について話し合う	状況の理解 情報の収集・分析	政党づくりを体験させる 自分の意見や役割を持たせる (自発性)	(関・意・態)
3	「テーマ学習」【展開例】 ・政党名、選挙人名簿を決める ・党首が演説を行う	意思決定 実行	自分たちの主張を明確にさせる (切実感) 役割を果たすことができるようにする (責任感)	(関・意・態) (思・判)
4	「テーマ学習」【展開例】 ドント方式の仕組みを理解し、仮想投票の結果を明らかにする	実行	ドント方式の選挙を体験させる	(関・意・態) (技・表)
5	政党政治、世論と民主政治の発展について理解する		「テーマ学習」で体験したことを意識させる	(関・意・態) (知・理)

【2～4時の展開例】

〔本時目標〕〔評価規準〕は単元目標・単元の評価規準に同じ

〔展開〕(2/5)

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
<p>現在の国会議員選挙の仕組みを知る</p> <p>テーマ学習について確認する</p> <p>・国政についての自分の考えを言えるようにしよう</p> <p>・政党づくりからはじめて、選挙の仕組みを模擬体験しよう</p> <p>政党づくりをする(席の近い人5～8人のグループをつくる)</p> <p>国政についての意見をそれぞれ出し合い、最も推進したい意見をまとめてこの政党の意見とする</p> <p>党首、演説者を選ぶ</p> <p>演説や応援の練習をする</p>	<p>自分達の選挙区がどこか、定員とは何か確認させる</p> <p>4月当初からこのテーマ学習のために時事問題を取り上げて、政治的意識を高めておく</p> <p>党首希望者の意見に賛同する人が集まるという方法もあり、生徒の実情に合わせる</p>	<p>国政に興味を持ち、批判したり共感したりしながら、自分の考えを持つことができる</p> <p>〔状況の理解〕</p> <p>新聞などから情報を収集し、理解することができる</p> <p>相手に共感してもらうために、意見のまとめ方や伝え方を工夫することができる</p> <p>〔情報の収集・分析〕</p>

〔展開〕（ 3 / 5 ）

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
<p>政党の名前を話し合っ決めて全員で役割分担をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政権演説</li> <li>・名簿作り</li> <li>・ドント方式の計算係（電卓可）</li> <li>・黒板記入係</li> </ul> <p>政党の名簿を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比例区だけ</li> </ul> <p>に出る人は順位を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小選挙区にも出馬する人</li> </ul> <p>同士は同順位でよい</p> <p>党名をアピールしながら演説する（黒板使用可）</p> <p>聞く側はワークシートに各政党が主張する要点をメモする</p>	<p>全員が楽しく意見を言える雰囲気づくりから始める</p> <p>名簿については、この時点では、まだ細かく言っても混乱するだけなので、小選挙区に出る人は下のほうに同じ順位で書いて、比例区の方は上の方に順位を付けるのがよいと助言する</p> <p>同じ党の人は政党名を黒板に書いたり、演説に合わせて合いの手を入れたりして盛り上げるよう助言する</p> <p>すべての政党の演説をしっかりと聞いて、要点をメモするように指導する</p> <p>次回は仮の得票数を得たところからどのように決まってくるのかを体験していくことを確認する</p>	<p>グループで協力して政党づくりや演説原稿づくりなどを行うことができる〔意思決定〕</p> <p>自分の考えをまとめ、演説することができる〔実行〕</p>

1	神奈川 太郎
2	平塚 花子
3	川崎 三郎
4	横浜 四郎
4	藤沢 星子
4	鎌倉 五郎

〔展開〕（ 4 / 5 ）

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
<p>自分の政党の当選者数と当選者をドント方式で明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の政党の獲得議席を獲得票から計算する（詳細はワークシートの解説）</li> <li>・各党の数値を黒板に書き入れる</li> <li>・各政党の名簿を基に、当選者を決定する（上位記載者から）</li> <li>・比例代表の当選者を確認する</li> </ul> <p>過去の総選挙の結果を新聞から読み取る（プリントに比例代表区と小選挙区とかわりのあるところを載せる）</p> <p>感想等をワークシートに書く</p>	<p>同じ政党の中で、それぞれの小選挙区で落選してしまった候補者を取り上げ、何を基準に比例区で当選とするのかを具体的に説明する</p> <p>ドント方式で計算させている間に、教師は、同順位で書いてある（小選挙区立候補である）人物名を用いて、小選挙区結果の紙を作成しておく</p> <p>惜敗率の計算方法を提示し、黒板の名簿で具体的に説明する</p> <p>比例代表制の特徴について説明する</p> <p>新聞の省略形の読み方を知らせるとともに、今回の学習と関連することを新聞から読み取らせる</p> <p>選挙があったとき、新聞記事を基に家の人に説明できるように励ます</p>	<p>ドント方式の仕組みに従って選挙の結果を出すことができる〔実行〕</p>

## 【学習の実際】

### ( 3 / 5 時間目 )

生徒による演説会では、どの演説者も想像以上に熱く雄弁に自分の思いを語った。聞く側も同じ中学3年生でここまで考えているかと驚きながら話の内容を共有していた。例えば、「少子化を止めるために」という主張をし、自分たちの政策を述べた生徒もいた。今の社会の状況をよく把握していることが分かった。

演説をした生徒の一人は、「あの授業で皆を動かした実感があり、今もその力を発揮させています。あの経験が生きているのかもしれませんが。それから、20歳になったらちゃんと投票したいと思っています。投票しないと政治に対して愚痴も言えないので・・・。」と語っていた。

演説の後は右の写真のように強くアピールし、共感する生徒もそれに応える場面が見られた。



### ( 4 / 5 時間目 )

本時は、小選挙区比例代表並立制による政党の得票と当選者の関係を学習することを目的として設定した。前時の演説を受けての生徒による投票を反映させる方法もあるが、授業時数が十分にとれないことやドント方式の計算が複雑になることもあり、この実践では、演説の内容とは切り離して、各政党に得票数を「仮得票数」として与え、当選者を決定する方法を学習することとした。

使用したワークシートや具体的な指導の手順は、42～45ページの参考資料1・2のとおりであるが、生徒はグループ(政党)で協力し合って、仮得票数を基に自分の政党の当選者数を割り出した。また、小選挙区の名簿から誰が当選者となったかを惜敗率を基に明らかにした。

仮とはいえ、自分たちの政党についての問題であり、実際に生徒の名前で候補者名簿が作成されていることもあって、学習にはとても前向きで、1単位時間という短い時間であったが、複雑なドント方式をよく理解し、小選挙区比例代表並立制が取り入れられている理由を把握することができた。



### 【考察】

1～4時の学習活動により、5時の学習活動も充実したものとなった。それは、46ページに示したような学習後の生徒の感想からうかがうことができる。

生徒の感想に「実際に自分たちでやってみたら仕組みが分かった」とあるように、自分たちの問題という切実感をもって取り組んだことにより、生徒は実感をもって「選挙」というものを理解することができた。また、「大人になっても忘れない」「今度の選挙の結果を見るのが楽しみになった」というように、単に理解したというだけではなく、これを今後の自分の生活にいかそうという態度が身に付いた。

「将来選挙に行きたくなくなった」というコメントは自発性の芽生えと受け止めることができる。さらに注目すべきことは、「仕組みが分かったのはいいけど…」と、自分なりにこの選挙制度の問題点を考えている点である。まさにシチズンシップ教育の目指したい姿である。

生徒はこの単元でシチズンシップを十分に学んだと言える。

社会で政治分野を学習中に国会議員の選挙が行われることがある。その際には、ここで身に付けた力をいかすことができるとアドバイスできる。また、選挙が終わった後、本単元の学習に入る場合には、実際の選挙のときの新聞の一部を紹介し、そこからドント方式の決定や小選挙区で敗退したのに比例区で復活当選したところを自分の力で読み取らせることで、「実社会を読む」という自信を持たせることができる。

学習には驚きが必要であり、また、「こんなにややこしいことが分かった」という喜びと、それだけのスキルを身に付けた自信が大切である。それが、選挙権を持つ年齢に達したときに成果となって表れることを期待する。



## 《参考資料1》ワークシート

### テーマ学習「小選挙区比例代表並立制」

1. 現在の政治経済・社会生活関係で、特に自分が訴えたいこと・変化させたいこと・今の生活を守りたいことなどをいくつか書き表しなさい。

・  
・  
・

2. 自分たちで政党をつくろう！

政党の名前を話し合って決めよう！・・・[ ]党

役割分担（全員が分担）

党首・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）

政見演説をする人・・・・・・・・・・（ ）

名簿づくり・・・・・・・・・・（ ）

ドント方式の計算係（電卓使用可）・・・（ ）

黒板記入係・・・・・・・・・・（ ）

比例代表選挙用の党の名簿作成 中央選挙管理委員会に名簿を提出。

3. 政見演説を聞き、最も言おうとしていることを聞き取り、メモしなさい。

演説順	政党名	演説の内容
1	党	
2	党	
3	党	
4	党	
5	党	
6	党	

4. 自分の政党の仮得票数は（ ）票でした。

5. では、どこの政党が何人の当選者を出すことができるのか、ドント方式を使って自分の政党の当選者数を導きなさい。

**仮定条件**

定数 12 の選挙区とする。

六つの政党が得た得票数（このテーマ学習ではそれぞれの政党が仮得票数を紙に書いたくじを引く）を基に計算する。

それぞれの政党が前もって中央選挙管理委員会に提出した名簿登載者のうち、誰が当選することになるのか導き出す。

**方法**

ドント方式 を用いる。ドント博士が考え出した議席の比例代表の配分法。

ドント方式用ワークシート 南関東比例代表選挙区（仮の定数 12）

政党の得票数						
	党	党	党	党	党	党
1で割る						
2で割る						
3で割る						
4で割る						
5で割る						
6で割る						
獲得議席数						

< 作業手順 >

仮得票数の多かった順に政党名と得票数を入れる。

それぞれの得票数を、1・2・3など指定された数字で割った答を枠に記入する。

その際、まず自分の政党の分を計算し、次にほかの政党の得票数も計算する。（小数点以下四捨五入して整数で記入）特に計算係は、自分の政党の計算に間違いがないように注意する。

各政党の黒板記入係が黒板の表の中に記入する。

定数 12 なので、結果の数字のうち、大きい数値から順に 12 個を選び、 で囲む。

政党ごとに、その  の数を表の一番下の欄に記入する。それが自分の政党の獲得議席である。

では、自分の政党の名簿記載者のうち、実際に当選し衆議院議員になれるのは誰なのか？

小選挙区で落選し、比例区で当選可能な範囲に何人かいたらどうするのか？（並立制の肝心なところ）

\*以下、惜敗率を含めて黒板で解説する。

6. 感想・意見

3年	組	番	氏名
----	---	---	----

注：本ワークシートは、実際には生徒の書き込み欄だけにする（解説部分は説明すればよいので印刷する必要はない）。A4判1枚くらいにまとめるとよい。



## 《参考資料2》用意するもの

### 「小選挙区比例代表並立制」ワークシート

得票数を書いたくじ・・・数字は計算しやすい数字を用いる。

次ページ「ワークシートで使った数字」の政党の得票数を参照（実際よりもかなり少ない数字にしている）

政党名と順位と名前を記名できる枠のあるシート（政党数分）と説明用の記入例

ここでは、比例区のみ  
の候補者には順位を付  
け、小選挙区にも出て  
いる候補者には下位の方  
に同じ順位にして並べ  
るように助言する。

( )党比例代表区名簿	

中央選挙管理委員会

〔シート〕

( )党比例代表区名簿	
1	神奈川太郎
2	平塚花子
3	川崎三郎
4	横浜四郎
4	藤沢星子
4	鎌倉五郎

中央選挙管理委員会

〔記入後(例)〕

小選挙区の結果を書くシート(例)

神奈川13区		
順位	立候補者	得票数
1	(A 藤沢星子)	138000
2	××一郎	80000
3	田四郎	50000
4	月子	1000

神奈川14区		
順位	立候補者	得票数
1	秋 太郎	160000
2	(B 横浜四郎)	80000
3	山次郎	18000
4	川 歩	3000

神奈川15区		
順位	立候補者	得票数
1	春 花子	100000
2	×丘三郎	95000
3	谷 薫	80000
4	(C 鎌倉五郎)	70000

\* 生徒の人数に合わせて小選挙区の結果を書くシートを作成する。得票数は、惜敗率の計算がしやすいように工夫する。

( 比例代表選出についての説明 )

授業をしながら準備・・・( A ) ~ ( C ) のところに生徒の作った比例代表区名簿の中と同順位の生徒名を入れる。

前ページの「 党比例代表区名簿」の例を使って のように入れる。

Aさんは小選挙区当選なのでまったく比例区にはかかわりがなくなる。

Bさんは2位、80000票で小選挙区落選

Cさんは4位、70000票で小選挙区落選

\* 党が4議席獲得している場合、このBかCが4議席目となる。

惜敗率(当選者の得票数に対する落選候補者の得票数の割合)を計算させる。

Bさんの惜敗率  $80000 \div 160000 \times 100 = 50\%$

Cさんの惜敗率  $70000 \div 100000 \times 100 = 70\%$

\* 順位も投票数もBさんより低く見えるCさんが比例区で復活当選となる。

ワークシートで使った数字

政党の得票数	27000	22000	14000	11000	9000	7500
	党	党	党	党	党	党
1で割る	27000	22000	14000	11000	9000	7500
2で割る	13500	11000	7000	5500	4500	3750
3で割る	9000	7333	4666	3666	3000	2500
4で割る	6750	5500	3500	2750	2250	1875
5で割る	5400	4400	2800	2200	1800	1500
6で割る	4500	3666	2333	1833	1500	1250
獲得議席数	<u>4</u>	<u>3</u>	<u>2</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>

## 学習終了後の生徒の感想（一部）

これまで選挙というものがよく分からなかったけど、実際に自分たちでやってみたら、仕組みが分かった。政党ごとにやりたいことが違うんだな、と分かったような気がする。ドント方式をよく覚えて、やっぱりこの授業はやってよかったと思う。

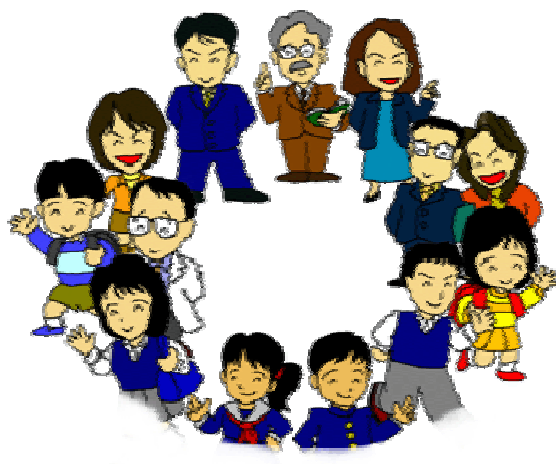
ドント方式や惜敗率のことが分からなかったけれど、実際にやってみたらよく分かりました。私はテレビを見ても選挙のことが分からなかったのに、勉強してからは親に自慢できるほど分かりました。ぜひ今度の選挙のとき見てみたいです。

いままで小選挙区は分かっていたけど、きょう学習した比例代表のほうは言葉しか知らなかった。ドント方式は、「なるほどー」と感心した。ただ教科書を読むだけだったら、きっと理解できなかったと思うし、実際にやってみたので大人になっても忘れないと思う。ただ、仕組みが分かったのはいいけど、それと同時に選挙にもいろいろ問題点があることが分かった。地元で落選した人が（比例区で）当選するのが分からない。小選挙区に立候補したら比例区に名前を書かないほうがよい。

新聞の見方も分かって、今度の選挙の結果を見るのが楽しみになった。衆議院選挙の仕組みも分かった気がする。自分の区やブロックも分かって、将来選挙に行きたくなった。

自分はこの勉強をして、選挙のことがよく分かった。この勉強をしなかったらずっと選挙のことが分からなかったと思う。とても分かりやすい説明のしかたでよかった。これからもこういうのもっとやってもらいたい。自分の政党をつくってやったからとてもおもしろかった。

小選挙区の問題点は死票率が高くてそれに小さい政党に不利で大政党がとても有利。比例代表は小さい政党に投票された国民の意見がある程度生きることが分かった。しかし、一人ひとりの意見が分からない。もっと一人ひとりの顔が見えて意見が分かるようにして、それで死票もなくす方法にしたほうがいいと思う。



## 4 高等学校の実践例

外国語（英語）

第2学年「INVITE PEOPLE TO YOUR TOWN！」

### 【単元目標】

自分たちが暮らす地域に外国の人々を招き、英語を用いて地域を紹介するポスターを作成し、オーラルプレゼンテーションを行うなどのコミュニケーション活動を通して、互いの情報や考えを理解することができるようにする

異文化間コミュニケーションの場面で、自己紹介に加えて自分の地域社会を紹介する活動から情報や考えを伝える能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる

### 【単元の評価規準】（丸数字は指導計画表に対応）

セールスポイントの言葉を考えるなど、積極的に取り組んでいる（関心・意欲・態度）

自ら学んだ表現などを使い、収集した情報や自分の考えなどを意欲的に発表している（関心・意欲・態度）

発表するための情報を積極的かつ適切に収集している（関心・意欲・態度）

地域社会の情報を客観的で分かりやすい英語で表現することができる（表現の能力）

伝えたい情報や考えなどを、聴衆に正確に話すことができる（表現の能力）

聞き手の立場に立って、工夫をこらして発表することができる（表現の能力）

相手の話の内容を正しく聞き取ったり、聞かれたことに対して素早く適切に応じたりすることができる（理解の能力）

地域社会の事柄を表すために必要な英語の語彙や語法を知っている（知識・理解）

地域社会における日常の生活や歴史・風俗・習慣などを理解している（知識・理解）

### 【シチズンシップ教育の視点】

意識	他者とのかかわり
知識	公的・共同的な分野（教養・文化・歴史）
スキル	

問題の認識または状況の理解

- ・地域社会の事物や活動の中で、優れている、自慢できるものを抽出することができる
  - ・外国の人に、自分たちの文化を伝えることの重要性を理解することができる
- 情報の収集・分析
- ・地理、歴史、文化、経済などの様々な視点から地域の情報を収集することができる
  - ・外国の人にとってどのような情報が有用かを考慮しながら情報を整理することができる
- 意思決定
- ・グループの中で出された情報の有用性を検討し、取り上げる情報を選択することができる
- 実行
- ・外国の人に、地域社会の情報を英語で紹介することができる

【単元設定に当たって】

高等学校2学年のオーラル・コミュニケーション のレッスンプランである。

自分たちの地域(国)に、外国の人を招くためのプレゼンテーションを行うという具体的な目標の中で、地域の優れた点を調査し再認識するようにして、切実感を持たせようとした。

自発的な学習にするため、グループ単位の学習とし、情報収集には図書室やインターネットなども使用した。また、文字情報のほかに、画像やイラストなど自由な情報を加えるように指導をした。

普段の生活では見逃しているような地域社会の優れた点を再認識することで、地域社会に対する関心が高まり、地域社会の文化を継承する責任感にまでつながればよいと考えた。

【指導計画】6時間

時間	学習活動	スキル	シチズンシップ教育の留意点	評価規準(番号)
1	各グループで取り上げる地域を決定する 決定した地域のセールスポイントとなる事柄を出し合う	状況の理解	セールスポイントが単に観光ポイントの羅列にならないよう生活感のある視点で考えさせる (切実感)	(関・意・態)
2・3	セールスポイントに関する情報を収集する 集めた情報を整理し使用するものを確定する 【展開例】	情報の収集・分析	検索する情報は日本語、英語のどちらでもよいとする 雑誌の切り抜き、新聞記事、インターネットなど様々な情報源に当たらせる (自発性)	(関・意・態) (知・理)
4・5	確定した情報を英文にまとめる 地域を紹介するポスターを作成し、プレゼンテーションの準備をする	意思決定	分かりやすく簡潔な英文で書くようにさせる ポスターの割り付けも考えさせる	(知・理) (表現) (表現)
6	グループごとにプレゼンテーションをする 聞く側の生徒はプレゼンテーションの内容について質問をする	実行	第三者(社会)に向けて情報を発信する行為であることの自覚を促す(責任感)  聞く側にALTにも参加してもらい、発表の際の現実感を持たせる (切実感)	(関・意・態)  (表現) (理解)

【展開例】（２／６）

〔本時目標〕

- ・グループごとに前時までに決定した「外国の人を招きたい地域」と「セールスポイント」を基に、必要かつ有用な情報を具体的に調査・収集し英語でまとめることができるようにする

〔評価規準〕

- ・発表するための情報を積極的かつ適切に収集している（関心・意欲・態度）
- ・地域社会の事柄を表すために必要な英語の語彙や語法を知っている（知識・理解）

〔展開〕

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
<p>集めた情報を整理し確定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄った情報をグループ内で共有する （あらかじめコピーする等）</li> <li>・セールスポイントごとに情報をまとめる</li> <li>・まとめた情報を文章に表現する</li> <li>・言葉以外の情報の活用を考える 英文で書かれたパンフレットを入手した場合は、その英文を解釈し自分たちの英文に書き直す</li> <li>・英文の長さは長すぎないようにする</li> <li>・専門的すぎる語彙は避ける</li> </ul>	<p>本時は図書室で授業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ司書に図書選択の指導を依頼する</li> <li>・図書室のコピー機を活用し必要な情報を収集するようにする</li> </ul> <p>情報についての指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味・関心にこだわらず、幅広い視野で収集しようとしているか</li> <li>・情報は地域の特徴を表しているか</li> <li>・情報が少ないか</li> <li>・情報は正確か</li> </ul> <p>招く相手についての指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが招く相手の興味・関心を考慮しているか</li> <li>・相手に何を伝えたいのかを考えているか</li> <li>・自分を逆の立場に置いてみるなどの工夫をしているか</li> </ul> <p>英語についての指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和英辞典を使用しているか</li> <li>・自分たちの理解を超えない語彙を使用しているか</li> </ul>	<p>地理、歴史、文化、経済などの様々な視点から地域の情報を収集することができる</p> <p>〔情報の収集・分析〕</p> <p>外国の人にとってどのような情報が有用かを考慮しながら、情報を整理することができる</p> <p>〔情報の収集・分析〕</p>

【学習の実際】

〔地域の決定〕

- ・ 2名から4名のグループに分かれた。
- ・ 「神奈川県内」という条件で、各グループが扱う「地域」を決定するが、生徒の居住地域に偏りがあるため選択が重なることがあったので、話し合いによって変更をした。
- ・ 1時間目は、資料などに拠らず自分たちの現在の知識と情報で、どのように地域を紹介するかを話し合った。お互いの知識の共有ができた。
- ・ 話し合いの経過は配られているワークシートに書き込んだ。
- ・ 記入の仕方は、自分の下書きにするためのものであるため、ラフなものでもよいとした。

ワークシートの記入例

INVITE PEOPLE TO YOUR TOWN / PREFECTURE / COUNTRY!!	INVITE PEOPLE TO YOUR TOWN / PREFECTURE / COUNTRY!!
<p>Where do you want them to visit? 鎌倉</p>	<p>Where do you want them to visit? 大磯浜</p>
<p>Who do you want to visit your place? 外国人</p>	<p>Who do you want to visit your place? みなとみらい、あしひら金庫、中津川、フジネットワーク</p>
<p>What are the attracting points of the place? What to see, try, or eat etc. ・ 神社 ・ 公園 ・ 歴史  1199年 源頼朝、鎌倉 1180年 鶴岡八幡宮建立 1192年 頼朝、北条時宗に代わり鎌倉幕府を開く 1199年 頼朝没、源頼朝の二子時義、時朝 1219年 鎌倉文化、神道始まる 1264年 鶴岡八幡宮本宮再建 1284年 頼朝第3回開遷 1302年 北条時宗没</p>	<p>What are the attracting points of the place? What to see, try, or eat etc. ・ 大磯浜は東京湾に面する大磯の辺りにあり、神奈川県唯一の温泉地である。大磯浜には多くの中華料理店が立ち並び、大磯の魅力を最大限に引き出す。大磯浜には、大磯の魅力を最大限に引き出す。</p>
<p>What are you going to use in addition to the words? Photos, pictures, diagrams.</p> <p>Name _____</p>	<p>What are you going to use in addition to the words? Photos, pictures, diagrams.</p> <p>Name _____</p>

〔情報の収集と英文の作成〕

- ・ 情報の収集には図書室を利用した。あらかじめ図書司書に協力を依頼しておいたので、図書の検索の時間を短縮することができた。
- ・ グループの中で「セールスポイント」が絞り込まれていないために必要な情報の精選に時間をとられてしまうグループもあった。
- ・ 「鎌倉」を選択したグループの場合、歴史的解説に挑戦することになったが大きな情報と小さな情報の区別がうまくできないために、細部にこだわり始めてしまい、歴史の深みにはまってしまう場面があった。歴史を大きくとらえて外国人に分かりやすい説明文に組み立てることに難しさに気付いていた。

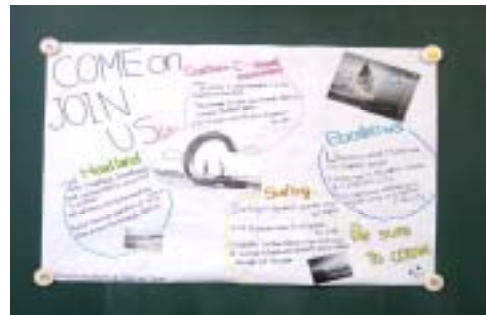
図書館で情報収集に取り組むグループ

- ・ 「横浜」を選択したグループは、歴史的、文化的、商業的、交通の面でも横浜の大きさに改めて気付かされ、横浜のどの切り口を見せるべきかがなかなか決まらずに苦労していた。
- ・ どのグループも和英辞典を活用し作文に取り組んだ。
- ・ 英文の作成にもかなりの時間が必要であった。自分が伝えたいことは分かっている、それをすぐに英語で表現できないもどかしさがあったようだ。その場合、内容の方を英語の実力に合わせて結果となり、出来上がってくる英文が自分の予想よりはるかに単純な内容になってしまい、生徒自身が満足できない気持ちになる場面も少なくなかった。



〔地域を紹介するポスターの作成〕

- ・ 模造紙2分の1の大きさで作成した。
- ・ 英文のほか、写真やイラストを取り入れるグループもあった。
- ・ 各グループとも、楽しそうにポスター作成を行っていた。自宅で写真を印刷してくる生徒もいた。





### 〔プレゼンテーション〕

- ・ 人前で話すことに苦手意識を持っている生徒が多く、生徒が最も気にしていた活動であった。
- ・ 「読み上げる」のではなく「話す」ように、ということは頭の中では分かっているものの、なかなかうまくいかず棒読みになってしまう生徒もいた。
- ・ 聞き手になったALTからは各グループに二つずつ質問が出たが、悪戦苦闘しながらも生徒たちは何とか答えていた。

### 【考察】

今回の実践授業では、コミュニケーションの練習に、より切実感を持たせるために、生徒自身の暮らしている地域を題材として、自分たちで情報を収集したり整理したりしてそれを発表するという形式をとった。

授業後の生徒の感想では、「実際に英語を使っている感じ」が得られたという声が多かった。また、グループ学習やものを作成するという内容も好評であった。

一方、英語で日本の文物を説明するという点においては、ほとんどの生徒が難しさを指摘していた。

頭の中では伝えたいことがあるにもかかわらず、それを英語で伝える時のもどかしさがある。その主な理由が英語力不足に起因することに改めて気付いた生徒が多かった。その反面、今回の学習で、実際の英語を使ったコミュニケーションの場面で自分の暮らしている土地の説明が予想以上に難しいことに気付いたことは一つの収穫であったと言える。

英語でのプレゼンテーションは、どの生徒も今までに経験したことのない活動であった。しかし、初対面の人と話の輪を広げるときに自己紹介が有効な手段であるように、外国の人との話題を広げるには自分の生まれ育った土地の話は有効である。今回の学習のもう一つの収穫と言えるであろう。

元来、英語学習の大きな目的は、言語文化を異にする人間同士が英語という共通の意思伝達手段を用いてコミュニケーションをとることができるようにすることである。人間同士の意思の疎通が市民としての人間活動の原点になることを考え合わせれば、「英語の学習そのものがシチズンシップ教育の一翼を担っている」とも言えるであろう。



## 5 特別支援学校の実践例

社会

知的障害教育部門 高等部「手話ニュースを見る」

### 【単元目標】

実社会に起きる様々な事象に関心を持ち、主体的に思考(感想、所感、疑問、批評等)することができるようにする

「自ら思考した内容を他者に伝える」ことにより、社会事象に対して主体的に思考している自己を自覚することができるようにする

「自ら思考した内容を他者に伝える」「他者の意見を聞く」ことにより、話題(社会の出来事)について他者と共有することができるようにする

### 【単元の評価規準】(丸数字は指導計画表に対応)

将来の社会生活に向けて、社会の出来事に関心を持つ(関心・意欲・態度)

多様なものの見方、考え方があることが分かる(思考・判断)

自分の考えを言葉で表現する(技能・表現)

社会の出来事について知り、他者と共有する(知識・理解)

### 【シチズンシップ教育の視点】

意識	自分自身、社会への参画
知識	公的・共同的な分野(社会への意識)
スキル	

問題の認識または状況の理解

- ・ ニュースに関心を持ち、内容を理解することができる
- ・ 他者の考え(意見)を理解することができる

情報の収集・分析

- ・ 社会の出来事に対して、主体的に思考することができる
- ・ 他者の考え(意見)と自分の考え(意見)とを比較(相違点、共通点)することができる
- ・ 関心のあるニュースについての情報収集や調査をし、理解を深めることができる

意思決定

- ・ 他者に理解してもらうために、自分の考えを述べるることができる

実行

- ・ 自分の考えた内容を他者に発信することができる
- ・ 社会の出来事について、他者と共有することができる

### 【単元設定に当たって】

特別支援学校の高等部の生徒は、将来の社会生活に向けての移行期間にあり、働く力(進路)、生活する力(生活基盤)、社会とかわる力(社会参加)などについて具体的な準備としての学習を進めていく段階にある。

本単元は社会とかかわる力(意識)を培うことを目指したものである。社会あるいは地域に起きた政治、経済、文化などの出来事を、「主体的に受け止め思考した内容を他者に表現し、他者と共有」することを通して、将来の社会生活に向けて社会の一員(市民)としての自覚と、社会に主体的にかかわりながら生活する意識、態度を育てたいと考えた。

学習の第一段階はニュースを見た後、「自分の所感を自由に発表する」「他者の所感を聞く」ことを学習活動の中心とした。ニュースに対して何かを思考している自己を自覚し、他者に発信することに重点を置いた。

次の段階として、任意のニュースを共通話題として意見交換をし、社会の出来事について「他者との共有」に展開させることを目指した。

なお、『手話ニュース』を取り上げたのは、15分間の放送で主要なニュースが分かりやすくコンパクトにまとめられており、生徒にとって理解しやすい内容・構成になっているからである。

【指導計画】5時間以上

時間	学習活動	スキル	シチズンシップ教育の留意点	評価規準(番号)
1 2も 同じ	『手話ニュース』を見る 所感を書く 最も関心を持ったニュースと、その感想について発表する 他者の発表を聞く 他者の発表について、意見や質問、関連した事柄について発言する	状況の理解	事前に次の事項について発表することを予告することにより、考えながら見ることを促す ・最も関心を持ったニュースは何か ・そのニュースについて、どのような関心、感想を持ったのか 自由な発想を促す ・主体的に思考し、発信する (自発性)	(関・意・態) (思・表)
3 4も 同じ	『手話ニュース』を見る 共通話題にするニュースを決める ニュースを再度見る ニュースについての感想、不明な点、疑問点、関係することについて、発表し、他者の考えを聞く ニュースを再度見て感想を述べる【展開例】	状況の理解 情報の収集・分析 意思決定 実行	事前に共通話題ニュースについて話し合うことを伝え、ニュースを他者と共有することを意識させる 同じニュースについて、多様なものの見方、考え方、関心の持ち方があることを認識させる 「思考する 発信する 他者の考えを知る 振り返る」というプロセスを大切にする (自発性) ・社会の事象を他者と共有する	(思・表) (知・理) (技・表)
5	4時限目で取り上げたニュースに関連する事項について調査、情報収集をする 調べたことを発表する	情報の収集・分析 意思決定 実行	社会の出来事に対する理解を深めさせる 日常生活の中にもいかすことができるように働きかける (自発性)	(技・表) (関・意・態)

\* 生徒の状況に応じて1時間目あるいは3時間目の学習活動を何度か繰り返して行う。

【展開例】（ 3 / 5 ）

〔本時目標〕

- ・ 社会の出来事について、多様なものの見方、考え方があることが分かり、他者と共有することができるようにする

〔評価規準〕

- ・ 多様なものの見方、考え方があることが分かる(思考・判断)
- ・ 自分の考えを言葉で表現する(技能・表現)
- ・ 社会の出来事について知り、他者と共有する(知識・理解)

〔展開〕

学習活動	指導上の配慮事項	スキル
『手話ニュース』を見る	事前に共通話題ニュースについて話し合うことを予告し、ニュースについて他者と共有することを意識させる メモを取りながら見るようにさせる	ニュースに関心を持ち、内容を理解することができる 〔状況の理解〕
最も関心を持ったニュースを発表する	メモの項目 ・ 関心を持ったニュース ・ どの点に関心を持ったか	社会の出来事に対して、主体的に思考することができる 〔情報の収集・分析〕
共通話題にするニュースを決める	生徒の「思考する 発信する 他者の考えを知る 振り返る」という活動のプロセスを大切にする	他者の考え(意見)と自分の考え(意見)とを比較(相違点、共通点)することができる 〔情報の収集・分析〕
共通話題のニュースを再度見る	ニュースを見ながらメモを取ることで、自分の所感(一番伝えたいこと)を整理させる	他者に理解してもらうために、自分の考えを述べることができる 〔意思決定〕
発表内容の整理 (他者に伝えるための準備)	メモの項目 ・ どんなことを思ったか ・ 発表すること ・ さんの感想について	自分の考えた内容を他者に発信することができる 〔実行〕
ニュースについての感想、不明な点、疑問点、関係することについて、発表し、他者の考えを知る	聞く側のことを意識させながら他者に一番伝えたいことを中心に整理させる	社会の出来事について、他者と共有することができる 〔実行〕
他者の考えを聞いた上でニュースを再度見て感想を述べる	同じニュースについて、多様なものの見方、考え方、関心の持ち方があることを認識させる	

## 【学習の実際】

ここでは 高等部の一人の生徒に対して行った指導について紹介する。

Aさん：脳性まひによる四肢体幹機能障害 身障手帳1級 療育手帳A2

身辺処理、移動等は全介助。日常会話はおおむね理解する力を持つが口話は難しい。

五十音表の文字を目線で示す方法で意思表示を行ことができるようになった。コミュニケーション手段として有効ではあるが、会話にある程度の時間を必要とし、本人のペースに合わせて会話を進行させる配慮を要する。

Aさんは高等部入学以前、地域の小学校、中学校の普通級に在籍という就学歴を持つ。日常生活において家族やクラスの友人たちと社会に起きた出来事、ニュースを話題にする会話の輪に参加することはあった。しかし、他者の話を聞くことはあっても、障害の事情から自己の所感を発信する機会はほとんどなかった。そのため、社会の出来事に対して主体的に関心を持つ態度は育っていなかった。

学習初期の段階では「『手話ニュース』を見たあと、自由な観点から自己の所感を文字で発信する」学習活動を繰り返し、次の3点に重点を置いた。

- ・ ニュースに関心を持ち、内容を理解する
- ・ 社会の出来事に対して、主体的に思考する
- ・ 自己の思考した内容を他者に発信する

はじめはニュースを見た後、思考するばかりで所感を発信することは全くできなかった。回を重ねることで次第に発信できるようになっていった。

Aさんがニュースについて自己の所感を発信することに成功した例を簡単に紹介する。

学習活動	設 問	Aさんが示した文字 (五十音表文字盤)	伝えようとした所感 の内容
指導計画の 1時間目の 内容	最も関心を持ったニュースは何か	あめ	雨が降った (ある地域の集中豪雨 のニュース)
	そのニュースについてどんな感想を持ったか	あめ ふた かわ どう すごい	雨が降った 道路が 川のようにだ すごい
(同じ学習 活動)	最も関心を持ったニュースは何か	がいこく じけん	外国の事件(紛争)
	そのニュースについてどんな感想を持ったか	まち きたない	街が混乱している

## 【考察】

Aさんの場合、学習をはじめたころは、ニュースを見ても自分の所感を伝えることはできなかった。それは社会の出来事に対して“聞く”ことはあっても、主体的に思考するという活動の経験、機会がなかったことによると考えられる。

しかし、回を重ねることで次第にAさんなりの所感を発信できるようになったことは、これまで受け身的に聞くだけであった社会の出来事に対して、主体的に受け止めて思考するという意識、かかわり方の変化があったと言える。自分から行動を起こして他者に働きかけるということはまさにシチズンシップ教育の目指すところである。はじめはAさんを取り巻く教師や生徒の集団という小さな社会の中でのやりとりであっても、こうした取組を継続していくことによって、今後実社会に出たときに生きることになるであろう。

特別支援学校の生徒の場合、働きかけるというよりも働きかけられる対象となりやすい。その際、ありがちなのが、一方通行的に「働きかけられ」て活動が終わってしまう形である。これは交流とは言えず、相互理解にはなかなか結び付かないものである。特別支援学校では、「私たちの思いを伝えたい」という自発的な活動を今後さらに充実させていく必要があると考える。例えば、高等部の音楽の学習活動として、地域貢献という意識を持って高齢者施設に行って演奏するという取組が見られるが、こうした活動を増やしていくことも有効であろう。本単元はその第一歩となる「自分から」を大切にしたい取組である。

特別支援学校では、シチズンシップ教育先進校において実践されている社会に直接働きかけるような学習活動を、そのまま当てはめるには難しい側面があり、十分な検討が必要である。しかし、これまで述べてきたように、基本的な考え方は同じであり、特別な試みをしなくとも、現在行われている授業の中にシチズンシップ教育の要素を盛り込んだ学習活動を行うことは十分可能である。特に、卒業を控え、社会生活への移行の準備の時期にある高等部段階において、社会生活技能の向上や社会へ参加する意識、態度を育成することは重要である。そのための様々な実践がこれまでも行われてきたが、シチズンシップの観点でこうした実践や教育課程を再構成することによって、さらに充実した教育活動を展開することができるであろう。



## 6 実践例全体の考察

実践事例全体を通してみると次のようなことが言えます。

教科の単元目標の達成

シチズンシップ教育を行ったことにより、学習活動が充実し、その教科の単元目標の達成に大きな役割を果たしました。実践しやすい教科等はありませんが、ポイントを押さえることによって様々な教科で行うことが可能です。

発信・行動へ向けた学習活動

シチズンシップ教育では、対象に積極的にかかわるという姿勢が大切です。最終的なゴールとしては、児童・生徒自らの発信や行動が期待されます。そうした行動につながる学習活動が大切です。

児童・生徒の思いや願いの尊重

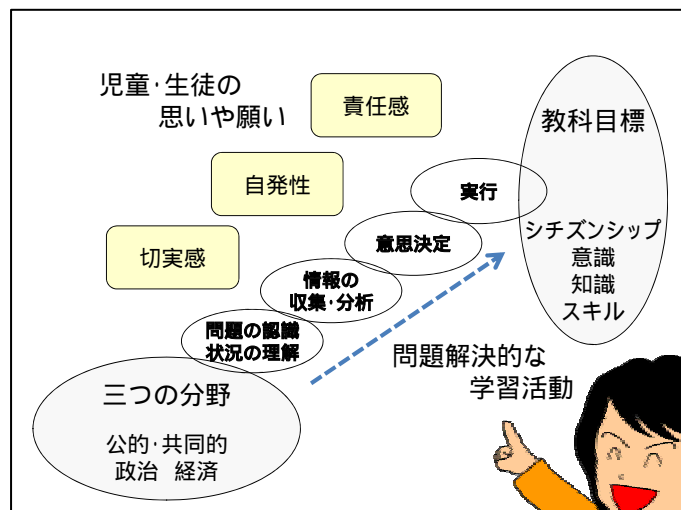
児童・生徒自らが発信し行動するためには、児童・生徒の「なんとかしたい」という切実感が重要です。さらに、自発性・責任感を持たせるような指導をすることによって、学習したことが発信や行動に結び付いていくようになります。

問題解決的な学習活動

発信や行動の段階にたどり着くためには、問題解決的な学習活動が有効です。実行の後にはまた新たな問題が見えてくることもあるでしょうし、日常生活態度や意識につながるものもあります。

共通性と発展性

これらのことはどの校種においても言えることです。こうした共通性を確認しつつ、児童・生徒の発達段階に応じて、発展性のあるものや体系化されたものにしていく必要があります。



本ガイドブックに示した実践例からも分かるように、シチズンシップ教育は、教科等の学習内容の上に新たな内容を上乘せしたものではありません。通常の授業の中で、教材や指導方法をひと工夫することによって、児童・生徒に市民としての自覚を芽生えさせたり、地域社会への提案者となるような意識を持たせたりすることができます。ポイントは、教師が意識してシチズンシップ教育の視点を持った授業づくりをしていく、というところにあります。

12 ページに示した「カリキュラムの構成要素の関連図」の考え方は、実践によってその有効性を確かめることができました。今後は、本ガイドブックで示した指導計画や実践例を参考にして、各学校でシチズンシップ教育のカリキュラム開発に取り組み、実践していただけたらと願っています。私たちの社会が成熟した市民社会になることを期待して…。

## 引用・参考文献

### 〔引用文献〕

経済産業省 平成 18 年『シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会報告書』p. 9、p.20、p.24

<http://www.meti.go.jp/press/20060330003/citizenship-houkokusho,honpen-set.pdf>

(平成 20 年 11 月取得)

神奈川県教育委員会 平成 20 年「平成 20 年度 学校運営の重点課題」p. 7

### 〔参考文献〕

相原実 2008「シチズンシップ教育に関する調査研究」(神奈川県立総合教育センター『研究集録』第 27 集)

安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する研究会 平成 20 年「安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議の開催に向けて(案)」

<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/shingikai/kikaku/21th/080311shiryu04.pdf> (平成 20 年 11 月取得)

安全・安心で持続可能な未来のための社会的責任に関する研究会 平成 20 年「安全・安心で持続可能な未来のための社会的責任に関する研究会報告書(案)」

<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/sr/index.html> (平成 20 年 11 月取得)

神奈川県「シチズンシップ教育の推進」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokokyoiku/kenritu/citizenship/kanagawa.html> (平成 20 年 11 月取得)

経済産業省 平成 18 年『シティズンシップ教育宣言』

<http://www.meti.go.jp/press/20060330003/citizenship-sengen-set.pdf> (平成 20 年 11 月取得)

小玉重夫 2003『シティズンシップの教育思想』白澤社

鈴木崇弘他 2005『シチズン・リテラシー』教育出版

日本社会科教育学会 国際交流委員会編 2008『東アジアにおけるシティズンシップ教育』明治図書

嶺井明子編著 2007『世界のシティズンシップ教育』東信堂

「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」関係省庁連絡会 平成 18 年「わが国における『国連持続可能な開発のための教育の 10 年』実施計画」

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/keikaku.pdf> - (平成 20 年 11 月取得)



『「シチズンシップ教育」推進のためのガイドブック』の作成関係者

< 助言者 >

所 属	職 名	氏 名	備 考
お茶の水女子大学	准教授	富士原 紀絵	平成 19・20 年度

< 調査研究協力員 >

所 属	職 名	氏 名	備 考
秦野市立渋沢小学校	総括教諭	山口 善弘	平成 19・20 年度
厚木市立厚木小学校	総括教諭	船津 慎一	平成 20 年度
茅ヶ崎市立北陽中学校	教諭	吉野 利彦	平成 19 年度
平塚市立金旭中学校	教諭	小林 真弓	平成 20 年度
松田町立松田中学校	教諭	中津川 明	平成 20 年度
寒川高等学校(19年度は高浜高等学校)	総括教諭	坂野 一之	平成 19・20 年度
麻生養護学校	総括教諭	長谷川智一	平成 19・20 年度

< 神奈川県立総合教育センター > (所属・職名は当該年度のものです)

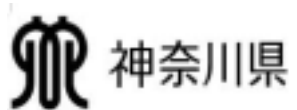
所 属	職 名	氏 名	備 考
カリキュラム支援課	指導主事	三 堀 仁	平成 20 年度
カリキュラム支援課	指導主事	大久保 敦	平成 20 年度
カリキュラム支援課	研修指導主事	相 原 実	平成 19 年度
カリキュラム支援課	研修指導主事	阿部 一也	平成 19 年度
カリキュラム支援課	教育指導専門員	柴 田 哲	平成 20 年度

「シチズンシップ教育」推進のためのガイドブック

発 行 平成 21 年 3 月  
 発行者 安藤 正幸  
 発行所 神奈川県立総合教育センター  
 〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1  
 電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)  
 ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子は、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています



**神奈川県立総合教育センター**

カリキュラムセンター（善行庁舎）

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500

